

令和6年4月17日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が3月下旬～4月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照すること。

## 千葉県総合防除計画（令和6年3月版）



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (3月下旬～4月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	イネミズゾウムシ	少	2月畦畔0.25m <sup>2</sup> 土壤中成虫数：少【0.01頭/1.33頭】（-）	19
	ヒメトビウンカ	多	2月畦畔3m <sup>2</sup> 吸い取り成幼虫数：多【4.74頭/1.79頭】（+）	21
	イネクロカメムシ	やや少	2月畦畔0.25m <sup>2</sup> 土壤中成虫数：やや少【0.01頭/0.07頭】（-）	-
	イネドロオイムシ	並	前年6月の成幼虫蛹寄生株率：並【2.34%/4.92%】	19
	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	やや多	冬季気温（12月～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値）：高（+）	19
冬春トマト	うどんこ病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/2.83%】（-） 気象予報：日照時間並	30
	灰色かび病	並	発病株率：並【14.80%/14.48%】 気象予報：日照時間並	31
	コナジラミ類	やや多	成虫寄生株率 オンシツコナジラミ：並【0.00%/0.92%】 タバココナジラミ：多【0.80%/0.12%】（+） 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや多【2.42頭/3.67頭】（+） 気象予報：気温高（+）日照時間並	33

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (3月下旬~4月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
スイカ	つる枯病	並	発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（+）降水量並	-
	うどんこ病	多	発病葉率：多【0.40%/0.00%】（+） 気象予報：日照時間並	-
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生葉率：並【0.20%/0.22%】 気象予報：気温高（+）降水量並	41
	ハダニ類	並	成虫寄生葉率：並【0.20%/0.14%】 気象予報：気温高（+）降水量並	-
温州ミカン	そうか病	多	発病葉率：多【1.00%/0.20%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	26
	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【7.20%/4.50%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	28
カーネーション	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.00%/1.92%】 気象予報：気温高（+）日照時間並	-
	アザミウマ類	やや多	被害株率：やや多【12.80%/10.48%】（+） 成幼虫寄生株率：やや多【2.40%/1.04%】（+） 3月黄色粘着トラップ誘殺数：並【3.56頭/6.08頭】 気象予報：気温高（+）日照時間並	-

\* 黄色粘着トラップ誘殺数：438cm<sup>2</sup>の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

### (1) イネクロカメムシ（イネ）

越冬成虫の水田への侵入時期は5月下旬から6月である。苗箱処理剤での防除では6月まで効果の持続する薬剤を選択する。平成30年度試験研究成果普及情報「イネクロカメムシの発生生態と効果的な箱使用剤」も参照する。



### (2) スクミリンゴガイ（イネ）

千葉県HP、環境農業推進課の「ジャンボタニシ被害防止対策」も参照する。



### (3) つる枯病（スイカ）

ほ場の排水を良くする。多湿を防ぐため、トンネルの換気を適切に行う。

## II これから注意を要する病害虫

### スイカうどんこ病の発生拡大に注意

4月上旬に、トンネル栽培のスイカ生産ほ場10か所（富里市・芝山町）で病害虫発生予察調査を実施したところ、うどんこ病の発病株率が0.40%（2014～2023年は発生なし）と、過去11年で最も早く発病を確認した（図）。

また、調査年数が少ないため傾向は明確ではないが、ハウス栽培のスイカ生産ほ場10か所（富里市・芝山町）の3月上旬調査でも、うどんこ病の発病を確認している（過去4年で2回発生確認）。

本病は、寡日照や、乾湿を繰り返す条件で発生しやすい。また、いったん発生すると、薬剤での防除は困難であることが多い。向こう1か月の気象予報（4月11日気象庁発表）では、気温は高く、降水量及び日照時間は平年並とされている。

しかし、以上の状況から発生が拡大する可能性があるとみられるので、注意が必要である。

#### ＜被害＞

主に葉や茎に発生する。葉では円形に白い粉をふりかけたような症状が現れる（写真1）。病勢が進むと、葉の全面が白粉に覆われたり（写真2・3）、葉枯れを生じることもある。

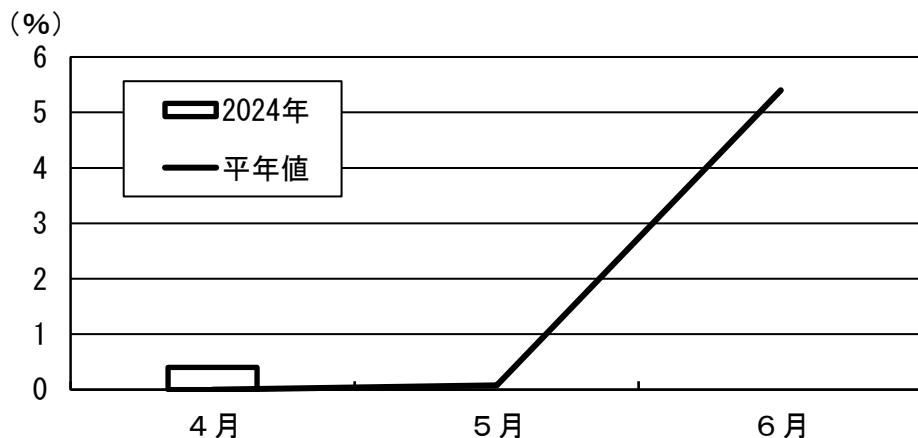


図 スイカうどんこ病の発病株率の推移（トンネル栽培）



写真1 台木子葉に発生したうどんこ病



写真2 写真1の裏のうどんこ病



写真3 病勢が進んだうどんこ病

＜防除法＞

1 耕種的・物理的防除

- (1) トンネルの換気を十分に行い、通風を良くする。
- (2) 発病部位は伝染源となるため早急に取り除き、適切に処分する。  
特に、定植時に子葉の葉裏での発生を確認する。

2 化学的防除

- (1) 病勢が進展してからの防除は困難なので、早期発見に努め、発病ごく初期から薬剤防除する。
- (2) 登録された農薬を用い、葉裏や下位葉にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、F R A C コード（下表※1参照）を参考に、ローション散布を行う。
- (4) 薬剤防除の際は、登録内容を十分確認し、特に使用時期には注意する。
- (5) 薬剤の選定について疑問点等がある場合は、普及指導員等に相談する。

表 スイカうどんこ病の主な防除薬剤（令和6年4月10日現在）

F R A C コード ※1	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数 ※2
3+U6	パンチョTF顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	2回以内
7	アフェットフロアブル	2,000	収穫前日まで	3回以内
7	パレード20フロアブル	2,000~4,000	収穫前日まで	3回以内
7+11	シグナムWDG	1,500~2,000	収穫前日まで	3回以内
9	フルピカフロアブル	2,000~3,000	収穫前日まで	4回以内
9+U13	ショウチノスケフロアブル	2,000	収穫前日まで	2回以内
19	ポリオキシンAL水溶剤	1,000~2,000	収穫3日前まで	5回以内
M2	イオウフロアブル	500	発病前~発病初期	—
M7	ベルクートフロアブル	1,000	収穫前日まで	4回以内
M10	モレスタン水和剤	2,000~4,000	収穫3日前まで	5回以内
N C	ハーモメイト水溶剤	800~1,000	収穫前日まで	—
未分類	サンクリスタル乳剤	300~600	収穫前日まで	—

※1 F R A C コード：殺菌剤の作用の仕組みの分類を表すものである。病原菌の薬剤耐性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※2 薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### ビワを加害するカメムシ類の発生について

ビワを加害する果樹カメムシ類は、チャバネアオカメムシを主体として、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシがあげられる。3種とも成虫で越冬し、越冬量が多い年には、5月中旬頃から6月にかけて収穫時期となる露地栽培のビワに多大な被害をもたらす。

昨年9月にチャバネアオカメムシ早期発生予測モデルを用いて、本年4～7月までの南房総地域におけるチャバネアオカメムシの発生量を予測した結果、多発と予想された（令和5年度病害虫発生予報第6号「Ⅱ その他の情報」を参照）。

4月10日までに果樹予察灯ではチャバネアオカメムシは誘殺されていないが、気温が上昇すると果樹カメムシ類の活動が活発になり、ビワの果実に被害が発生することが懸念される。向こう1か月の気象予報（4月11日気象庁発表）では、気温が平年より高くなるとされていることから、今後果樹カメムシ類の多発が予想されるので注意が必要である。

### ＜防除対策＞

1 果樹カメムシ類は、各種樹木の果実等を移動しながら吸汁しており、果樹園への飛来状況は地域や園により異なるので、園内をこまめに見回り、飛来を確認したら早急に薬剤防除を行う。

2 露地ビワは5月下旬から収穫期に入るため、収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

表 ビワでカメムシ類に登録がある主な防除薬剤（令和6年4月10日現在）

I R A C コード ※1	薬 剤 名	希釈倍数	使用時期／使用回数 ※2
3 A	テルスター水和剤	1,000～2,000	収穫前日まで／2回以内
	テルスターフロアブル	3,000	
	ロディー水和剤	2,000	収穫前日まで／4回以内
4 A	アドマイヤーフロアブル	2,000	収穫7日前まで (但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)／2回以内

※1 I R A C（殺虫剤抵抗性対策委員会）コード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

3 A：ピレスロイド系

4 A：ネオニコチノイド系

※2 薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

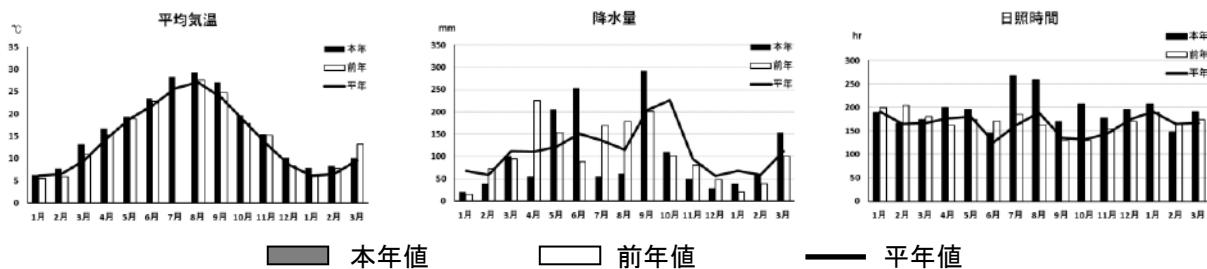
注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### III その他の情報

#### 令和5年度における農作物の主要病害虫の発生状況について

##### ○気象概況 (千葉市)

		気温 (°C)			降水量 (mm、 %)			日照時間 (hr、 %)		
		本年	平年	差	本年	平年	比	本年	平年	比
2023	1月	6.3	6.1	0.2	20	68	30	189	192	99
	2月	7.8	6.6	1.2	38	59	64	167	165	101
	3月	13.2	9.6	3.6	101	111	90	174	168	104
	4月	16.7	14.5	2.2	55	110	49	200	177	113
	5月	19.3	18.9	0.4	206	122	168	196	181	109
	6月	23.5	21.9	1.6	254	151	168	146	127	115
	7月	28.3	25.7	2.6	55	137	40	267	163	164
	8月	29.4	27.1	2.3	62	116	54	258	189	136
	9月	27.1	23.8	3.3	293	205	143	169	135	126
	10月	19.7	18.6	1.1	110	226	49	207	132	157
	11月	15.5	13.4	2.1	50	94	53	177	144	123
	12月	10.2	8.6	1.6	28	57	48	196	175	112
2024	1月	7.9	6.1	1.8	38	68	56	207	192	108
	2月	8.3	6.6	1.7	60	59	102	148	165	90
	3月	10.1	9.6	0.5	154	111	139	191	168	114



2023年1月から2024年3月までの気象概況 (アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

気温：3月から9月は平年に比べて高く、観測史上最も暑い年となった。10月以降はほぼ平年並となった。なお、冬期も1月、2月と極値を更新するなど、かなり暖かい冬となった。

降水量：5月、6月と平年を上回る降水があった。9月8日に線状降水帯が発生し、局所的に大雨となった。10月以降は平年の半分程度の降水となった。

日照時間：7、8、10月は特に平年より多くなった。

参考：梅雨入り：6月8日頃（平年6月7日頃） 梅雨明け：7月22日頃（平年7月19日頃）

○ 病害虫発生状況(巡回調査・フェロモントラップ調査)

1 イネ (4~8月上旬調査)

病害虫名	調査項目	育苗期	5月7日 基準日	6月2日 基準日	7月2日 基準日	7月16日 基準日	7月30日 基準日	収穫期
いもち病	発病苗箱率	並						
	葉いもち発病株率			並	並		やや少	
	葉いもち上位2葉 発病葉率						やや少	
	穂いもち発病株率						やや少	やや少
ばか苗病	発病苗箱率	やや多						
スクミ	被害株率		やや多	やや多				
リンゴガイ	貝密度(/m <sup>2</sup> )		並	やや多				
大型斑点米 カムムシ類	捕獲成幼虫数				多	多	やや多	並

2 普通作物

(1) サツマイモ (6~10月上旬調査)

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月	10月
ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	並	並	並	並	やや多
ナカジロシタバ	寄生幼虫数	並	やや少	並	並	やや少
イモキバガ	被害葉率	やや少	やや少	並	少	やや多
イモキバガ 以外	被害葉率	やや多	並	多	やや多	並

(2) ラッカセイ (7~9月上旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月
茎腐病	発病株率	多	並	並
白絹病	発病株率	並	並	やや少
ヒヨウタンゾウムシ類	被害株率	多	多	やや多

3 野菜

(1) スイカ (トンネル栽培) (4~6月上旬調査)

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月
うどんこ病	発病葉率	並	並	やや多
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	やや多	やや多	並
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	多	多	並

(2) サトイモ (6~9月上旬調査)

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月
汚斑病	発病葉率	並	並	並	やや多
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	並	並	並	やや多
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	やや少	やや少	やや多	並

(3) 夏秋トマト (7~10月下旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月
萎凋症	萎凋株率	並	やや少	多	並
すすかび病	発病株率	やや多	並	やや少	並
灰色かび病	発病株率	並	多	やや少	やや少
灰色かび病	発病果率		並	並	やや少
黄化葉巻病	発病株率	並	多	やや多	並
うどんこ病	発病株率	並	並	並	やや少
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	やや多	やや多	やや多	やや少
タバココナジラミ	成虫寄生株率	多	多	やや多	やや多
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	並	やや少	並	やや少

(4) 冬春トマト (12~4月上旬調査)

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	多	並	やや少	少
灰色かび病	発病株率	並	並	やや多	並
灰色かび病	発病果率	並	並	並	やや少
黄化葉巻病	発病株率	多	並	やや少	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	並	並	多	多
タバココナジラミ	成虫寄生株率	多	多	多	並
ハスモンヨトウ	被害株率	並	並	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並

(5) 秋冬ネギ (7~12月上旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さび病	発病度	やや少	やや少	並	並	並	並
べと病	発病株率	並	並	並	並	並	並
アブラムシ類	寄生株率	並	並	並	並	やや多	多
ハスモンヨトウ	被害株率	並	並	並	並	並	並
シロイチモジヨトウ	被害株率	並	多	多	多	多	多
ネギコガ	被害株率	並	並	やや多	やや多	やや多	並
ネギハモグリバエ	被害度	少	やや少	やや多	やや少	並	並

(6) 冬レタス (11~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	やや少	やや少
オオタバコガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並

(7) イチゴ (10~3月上旬調査)

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや少	並	やや少	やや少	並	並
灰色かび病	発病株率	並	並	並	並	やや少	少
アザミウマ類	成幼虫寄生株率	並	並	多	並	並	並
ハスモンヨトウ	被害株率	多	並	多	やや多	やや多	並
コナジラミ類	寄生株率	並	少	やや少	少	やや少	やや少

(8) 冬キャベツ (10~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	並	やや多	やや少
黒腐病	発病度	並	やや多	並	並	やや多
腐敗病	発病株率	並	並	並	並	並
ヨトウガ	卵幼虫寄生株率	並	並	並	並	並

(9) 春キヤベツ (12~4月上旬調査)

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
タマナギンウワバ	寄生幼虫数/10株	並	並	並	並

(10) 冬春キュウリ (11~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
うどんこ病	発病葉率	少	少	やや少	少
ベと病	発病葉率	やや多	多	やや多	やや多
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	少	やや少	並	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	並	やや多	やや多	並
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	並	並	並	並

(11) チョウ目害虫 (フェロモントラップ調査)

病害虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ハスモンヨトウ	やや多	やや少	少	並	並	並	並	並	多			
コナガ	並	並	やや少	少	少	少	並	並	やや少	少	並	並
シロイチモヨトウ	-	やや多	並	やや多	多	多	多	多	多			

#### 4 果樹

(1) ナシ (4~9月下旬調査)

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月
黒星病	発病果率	多	やや少	やや少	少	並	-
炭疽病	発病新梢率	並	並	並	並	やや多	やや多
シンクイムシ類	被害果率	並	並	並	並	並	-
ハマキムシ類	被害果率	-	並	やや多	並	並	-
ハダニ類	寄生葉率	並	並	並	並	やや少	やや少
吸虫類	被害果率	-	並	並	並	並	-

(2) カンキツ (温州ミカン) (3~11月下旬調査)

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
かいよう病	発病葉率	並	並	並	並	並	-	-	-	-
かいよう病	発病果率	-	-	-	並	並	並	並	並	-
そうか病	発病葉率	やや多	多	多	多	多	-	-	-	-
そうか病	発病果率	-	-	-	多	並	多	並	並	-
黒点病	発病果率	-	-	-	並	並	並	少	並	-
ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率	やや少	少	やや少	やや少	多	並	やや多	多	多
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率	並	並	並	並	やや多	やや少	やや少	やや少	-

(3) ビワ (3~5、9~10月下旬調査)

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月	9月	10月
灰斑病	発病葉率	やや少	多	多	多	多
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	やや多	並	並
カミキリムシ類	被害穴数	並	並	やや少	やや少	並
カメムシ類	寄生果率	-	並	並	-	-

(4) 果樹共通：果樹カメムシ類（フェロモントラップ調査）

病害虫名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
カメムシ類	並	やや少	並	並	やや少	やや多	並
シンクイムシ類	並	多	多	多	やや多	多	多
ハマキムシ類	やや多	並	並	並	並	少	並

5 花き

(1) カーネーション（9～3月下旬調査）

病害虫名	調査項目	9月	10月	11月	12月	1月	2月
立枯病	発病株率	並	やや少	並	並	やや少	並
萎凋病	発病株率	並	並	並	並	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並	並	並
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	やや少	並	並	並	並	並

(2) ストック（10～2月下旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
施設	コナガ	幼虫寄生株率	やや多	並	並	並
	ハイマダラメイガ	幼虫寄生株率	多	多	並	並
露地	コナガ	幼虫寄生株率	やや少	並	並	やや少
	ハイマダラメイガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並

菌核病、アブラムシ類、発生認められず。

● 特殊報、注意報、発生情報の発表状況

1 特殊報

- 令和5年5月24日 第1号 インパチエンス類べと病の発生について  
 令和5年9月4日 第2号 国内未記録種の *Heterodera cruciferae* の発生について  
 令和5年9月15日 第3号 パセリ葉先枯病（仮称）の発生について  
 令和5年10月6日 第4号 トマトキバガの確認について  
 令和5年10月20日 第5号 タテスジヒメジンガサハムシの発生について

2 注意報

- 令和5年8月1日 第1号 大型斑点米カメムシ類（特にクモヘリカメムシ、イネカメムシ）による斑点米発生に注意  
 令和5年12月20日 第2号 トマト黄化葉巻病の発生に注意

3 発生情報

- 令和5年8月3日 第1号 「トルコギキョウ葉巻病」の発生拡大について  
 令和5年9月22日 第2号 イネ縞葉枯病とヒメトビウンカの発生状況について

## 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稻: 2月中旬、野菜: 4月上旬、果樹・花き: 3月下旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	イネミズゾウムシ	畦畔0.25m <sup>2</sup> 越冬成虫数	0.01	1.33	0.06	
	イネゾウムシ	畦畔0.25m <sup>2</sup> 越冬成虫数	0.12	0.22	0.03	
	イネクロカムシ	畦畔0.25m <sup>2</sup> 越冬成虫数	0.01	0.07	0.06	
	ヒメトビウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.17	0.67	0.01	前年7月調査
	ツマグロヨコバイ	畦畔3m <sup>2</sup> 吸い取り成幼虫数	4.74	1.79	2.23	
	イネドロオイムシ	畦畔3m <sup>2</sup> 吸い取り成幼虫数	2.23	1.42	0.37	
	スクミリンゴガイ	25株当たり寄生成幼虫蛹数	2.34	4.92	4.17	前年6月調査
		被害株率 (%)	2.57	1.29	1.26	前年6月調査
		1m <sup>2</sup> 当たり貝数	0.42	0.24	0.44	前年6月調査
冬春トマト (海匝、長生)	うどんこ病	発病株率 (%)	0.00	2.83	0.40	
	灰色かび病	発病株率 (%)	14.80	14.48	20.40	
		発病果率 (%)	0.08	0.30	0.38	
		果実発病度	0.40	1.72	2.00	
	すすかび病	発病株率 (%)	0.00	0.25	0.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	オンシツコナジラミ	黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	0.15	0.21	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.92	0.00	
	コナジラミ類	成虫寄生株率 (%)	0.80	0.12	0.40	
	ハスモンヨトウ	黄色粘着トラップ誘殺数	2.42	3.67	0.93	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アザミウマ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.36	0.00	
		成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
春キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率 (%)	4.00	1.78	2.40	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.80	1.84	0.80	
	黒腐病	発病度	0.00	0.10	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	2.47	5.60	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.21	0.00	
トンネルスイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.20	0.22	0.60	
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	0.20	0.14	0.60	
ハウススイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率 (%)	0.00		0.00	2021年～
	ア布拉ムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00		0.20	"
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	0.40		0.60	"
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.20	0.04	0.12	
	かいよう病	発病度	0.00	0.04	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	7.20	4.50	0.00	
ピワ (安房)	灰斑病	発病葉率 (%)	2.75	3.10	0.75	
	ア布拉ムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.08	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	0.80	1.16	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.80	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	2.40	1.04	0.00	
		被害株率 (%)	12.80	10.48	0.80	
		黄色粘着トラップ誘殺数	3.56	6.08	0.71	
	ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	0.00	1.92	0.00	

### トラップ月間誘殺数 (3月)

種類	害虫名	トラップ設置場所	誘殺数 (頭/日)			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匝	0.19	0.65	0.46	
性フェロモン	ハスモンヨトウ	海匝	0.05	0.05	0.11	

## ○気象予報

4月11日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

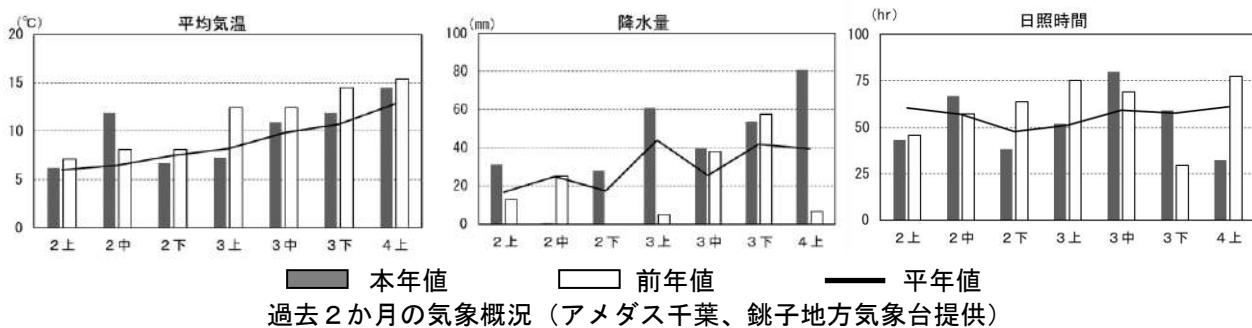
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(4月13日～5月12日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.4	15.4	16.3
降水量(mm)	100.6	116.2	145.0
日照時間(hr)	175.8	181.9	179.1



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・次回の発行予定は5月17日です。  
なお、注意報等臨時情報は逐次発行されます。
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)



令和6年5月17日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が4月下旬～5月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、2ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (4月下旬～5月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	苗発病度：並【0.00/0.00】 気象予報：気温高（-）降水量並　日照時間並	<a href="#">17</a>
	ばか苗病	並	苗発病度：並【0.85/0.65】	<a href="#">18</a>
	イネミズゾウ ムシ	並	成虫寄生株率：並【2.29%/2.01%】 4月予察灯誘殺数：並【22.7頭/25.2頭】	<a href="#">19</a>
	イネドロオイ ムシ	やや多	成幼虫蛹寄生株率：やや多【0.29%/0.12%】（+） 雑草地すくい取り捕獲成虫数：並【0.13頭/0.39頭】 気象予報：降水量並	<a href="#">19</a>
	スクミリンゴ ガイ（ジャン ボタニシ）	やや多	1m <sup>2</sup> 当たり頭数：並【0.18頭/0.20頭】 被害株率：多【1.14%/0.29%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">19</a>
	ヒメトビウン カ	やや多	2月畦畔3m <sup>2</sup> 吸い取り成幼虫数：多【4.74頭/1.79頭】（+） 雑草地すくい取り捕獲成幼虫数：並【0.00頭/0.01頭】	<a href="#">21</a>
	イネクロカメ ムシ	並	2月畦畔0.25m <sup>2</sup> 土壤中成虫数：やや少【0.01頭/0.07頭】（-） 4月予察灯誘殺数：多【3.0頭/0.8頭】（+）	-

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (4月下旬~5月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
スイカ	うどんこ病	並	発病葉率：並【0.00%/0.04%】 気象予報：降水量並　日照時間並	-
	アブラムシ類	やや多	寄生葉率：やや多【1.80%/0.66%】(+) 気象予報：気温高(+)　降水量並	41
	ハダニ類	やや多	寄生葉率：並【0.60%/0.54%】 気象予報：気温高(+)　降水量並	-
ナシ	黒星病	並	発病果率：並【0.15%/0.19%】 発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：降水量並	24
	アブラムシ類	並	寄生新梢率：並【0.44%/1.06%】 気象予報：気温高(+)　降水量並	24
温州ミカン	そうか病	多	発病葉率：多【1.60%/0.10%】(+) 気象予報：気温高(+)　降水量並	26
	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【8.40%/5.88%】(+) 気象予報：気温高(+)　降水量並	28
ビワ	灰斑病	やや多	発病葉率：やや多【4.00%/2.18%】(+) 気象予報：気温高(+)　降水量並	-
果樹共通	カメムシ類	多	桜樹払い落とし捕獲成虫数：並【1.10頭/1.36頭】 フェロモントラップ誘殺数：多【5.43頭/0.78頭】(+) 気象予報：気温高(+)	28

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

\* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) スクミリンゴガイ（イネ）

[千葉県HP、環境農業推進課の「ジャンボタニシ被害防止対策」](#)も参照する。



- (2) うどんこ病（スイカ）

[令和6年度病害虫発生予報第1号P3「これから注意を要する病害虫」](#)も参照する。



- (3) 黒星病（ナシ）

[令和4年度病害虫発生予報第2号P6「これから注意を要する病害虫」](#)も参照する。



- (4) カメムシ類（果樹共通）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）越冬後成虫多発生のおそれ」](#)も参照する。



## II これから注意を要する病害虫

### イネカメムシ

県内3地点（千葉市・香取市・南房総市）に設置している予察灯において、斑点米カメムシの一種であるイネカメムシ（写真1）が2018年頃から多く誘殺されている（図）。

本種は、主に出穂期に穂の基部を加害し、基部斑点米（写真2）による米の品質低下や、不稔（写真3）による減収をもたらす。

また本種は、稻への嗜好性が高いため、越冬場所（林縁の落葉下等）から、成虫が直接、出穂直後の水田に飛来して加害する。このため、出穂始期に本種の飛来を確認したら、ただちに次ページの表を参考に薬剤防除を行う。なお、従来の斑点米カメムシ類の防除適期（穂揃期から乳熟期後半）は、不稔防止を目的とした本種の防除時期としては遅いので注意する。

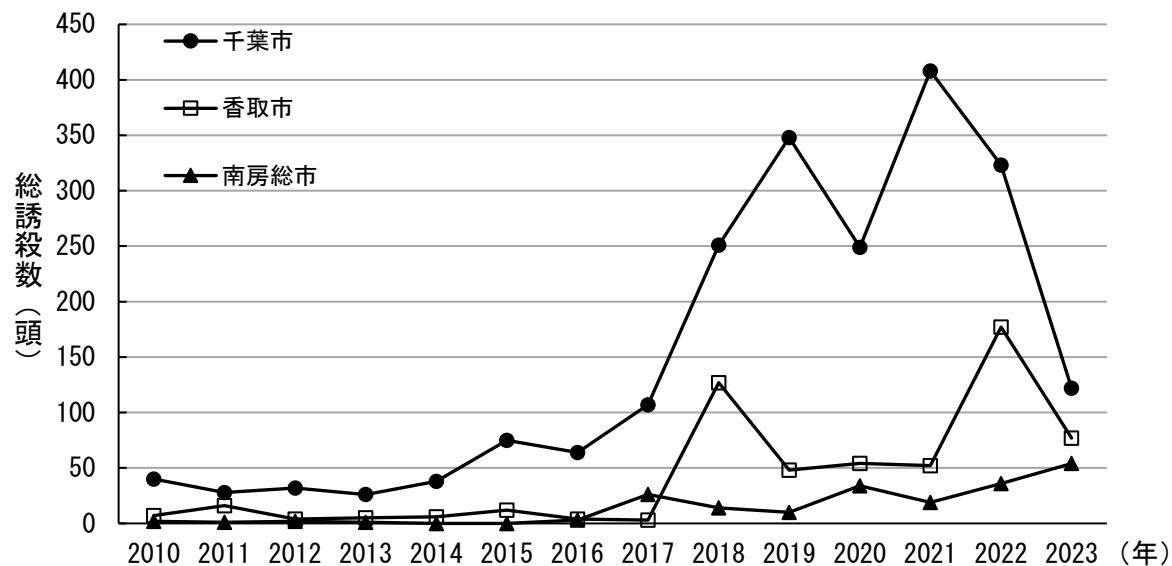


図 予察灯におけるイネカメムシ総誘殺数の推移  
(場所: 千葉市・香取市・南房総市、期間: 4~9月)



写真1 イネカメムシ成虫・幼虫



写真2 基部斑点米



写真3 加害による被害穂  
(青立ちした穂)

<防除対策>

- 1 水田の見回りや地域の発生状況から、本種の発生量が多いと判断した場合は出穂始期に薬剤防除する。
- 2 周囲よりも「出穂の早い水田」や「特に遅い水田」は集中的に加害される可能性があるため、特に発生に注意する。

表 イネカメムシに対する主な防除薬剤（令和6年5月7日現在）

I R A C コード ※1	薬剤名	希釈倍数・ 使用量	使用時期	使用回数 ※2
1 B	スミチオン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内
	スミチオン粉剤3DL	3~4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内 (出穂前散布 は1回まで)
2 B	キラップフロアブル	1,000~2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
	キラップ粉剤DL	3~4kg/10a		
	キラップ粒剤	3kg/10a		
3 A	トレボン粉剤DL	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
	トレボンMC	2,000倍	収穫14日前まで	
4 A	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル/アルバリン 粉剤DL	3kg/10a		

※1 I R A C（殺虫剤抵抗性対策委員会）コード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

1 B：有機リン系

2 B：フェニルピラゾール系

3 A：合成ピレスロイド系

4 A：ネオニコチノイド系

※2 薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### III 参考資料

#### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稻: 4月中旬~5月上旬、スイカ: 5月上旬、果樹: 4月下旬、果樹カメムシ類: 5月上旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	苗の発病度	0.00	0.00	0.00	2月調査
	もみ枯細菌病	苗の発病度	0.00	0.25	0.14	
	苗立枯病	苗の発病度	1.33	0.27	0.00	
	ばか苗病	苗の発病度	0.85	0.65	1.29	
	イネミズゾウムシ	成虫寄生株率 (%)	2.29	2.01	1.56	
		雑草地すくい取り成虫数	0.27	0.51	0.44	
	イネゾウムシ	成虫寄生株率 (%)	0.17	0.09	0.00	
		被害株率 (%)	1.77	0.29	0.25	
	イネドロオイムシ	成幼虫蛹寄生株率 (%)	0.29	0.12	0.19	
		雑草地すくい取り成虫数	0.13	0.39	0.21	
スイカ (山武・印旛)	スクミリンゴガイ	1m <sup>2</sup> 当たり個体数	0.18	0.20	0.19	2月調査
		被害株率 (%)	1.14	0.29	0.69	
	ヒメトビウンカ	畦畔 3m <sup>2</sup> 吸い取り成虫数	4.74	1.79	2.23	
		雑草地すくい取り成虫数	0.00	0.01	0.01	
	イネクロカメムシ	畦畔 0.25m <sup>2</sup> 越冬成虫数	0.01	0.07	0.06	
ナシ (県内全域)	つる枯病	発病葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	1.80	0.66	1.20	
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	0.60	0.54	1.80	
温州ミカン (安房)	黒星病	発病葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	赤星病	発病果率 (%)	0.15	0.19	0.91	
	ハマキムシ類	発病葉率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	ハダニ類	被害葉率 (%)	0.06	0.03	0.03	
	アブラムシ類	成虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
ビワ (安房)	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.44	1.06	0.41		
	そうか病	発病度	0.32	0.02	0.08	
	かいよう病	発病度	0.00	0.04	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	8.40	5.88	0.00	
果樹共通	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	果樹カメムシ類 (安房)	サクラ樹払い落とし虫数	1.10	1.36	0.43	
		頭/網				

#### トラップ月間誘殺数 (4月) \*種類別の単位の違いに注意

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数 (*)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	22.7	25.2	6.0	頭/月
	イネクロカメムシ	〃	3.0	0.8	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	4.0	0.7	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	20.0	0.3	1.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	6.0	2.4	4.0	
	カメムシ類	〃	30.0	3.4	5.0	
性フェロモン	コナガ	海匝	2.1	2.7	2.4	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	1.0	0.8	0.6	
	シロイチモジョトウ	安房	0.4	0.0	0.0	
	オオタバコガ	県内全域	0.3	0.4	1.4	
	タバコガ	県内全域	0.0	0.0	0.0	
	ナシヒメシンクイ	印旛	6.6	1.2	1.4	
	モモシンクイガ	印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	印旛	6.6	1.2	1.4	
	チャハマキ	印旛	1.0	1.1	2.0	
	チャノコカクモンハマキ	印旛	2.3	0.8	1.4	
	ハマキムシ類	印旛	3.3	1.8	3.4	
	チャバネアオカメムシ	県内全域	4.4	0.6	0.4	
集合フェロモン	ツヤアオカメムシ	〃	0.8	0.1	0.0	頭/日
	クサギカメムシ	〃	0.3	0.1	0.1	
	カメムシ類	〃	5.4	0.8	0.5	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	〃	0.4	0.4	0.2	

## ○気象予報

5月16日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

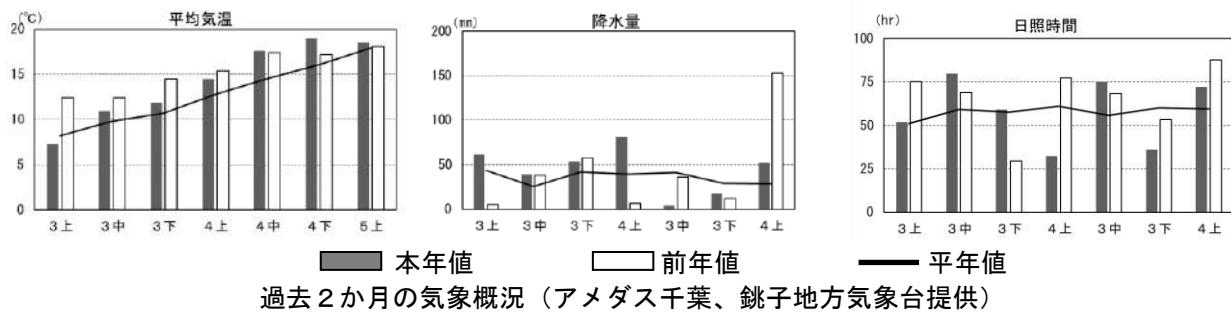
向こう1か月間の各気象要素の平年値

(5月 18 日～6月 17 日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	20.6	19.0	20.2
降水量(mm)	142.6	159.3	187.2
日照時間(hr)	161.3	177.1	168.0

出典：気象庁ホームページ



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・次回の発行予定は6月18日です。  
 なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)



令和6年6月18日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が5月下旬～6月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、2ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	いもち病 (葉いもち)	並	発病株率：並【0.00%/0.03%】 気象予報：降水量並	<a href="#">17</a>
	紋枯病	並	発病株率：並【0.00%/0.00%】 前年8月下旬発病株率：並【5.51%/6.83%】 気象予報：気温高（+）	<a href="#">19</a>
	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	やや多	被害株率：多【5.03%/1.53%】（+） 1m <sup>2</sup> 当たり貝数：やや多【0.44頭/0.28頭】（+）	<a href="#">19</a>
	イネクロカムシ	並	5月予察灯誘殺数：やや少【17.1頭/27.5頭】（-） 成幼虫寄生株率：並【0.06%/0.14%】 気象予報：気温高（+）	-
	ヒメトビウンカ	やや多	5月予察灯誘殺数：多【0.6頭/0.1頭】（+） 20回振りすくい取り成幼虫数：やや多【0.99頭/0.54頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">21</a>
	セジロウンカ	多	5月予察灯誘殺数：並【0.0頭/0.0頭】 成幼虫寄生株率：並【0.00頭/0.00頭】 20回振りすくい取り成幼虫数：多【0.14頭/0.00頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">20</a>
スイカ	うどんこ病	やや多	発病葉率：やや多【7.20%/3.24%】（+） 気象予報：降水量並　日照時間並	-
	アブラムシ類	並	寄生葉率：並【4.60%/5.48%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">41</a>
	ハダニ類	並	寄生葉率：並【5.00%/4.86%】 気象予報：気温高（+）降水量並	-

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
サトウモモ	アブラムシ類	並	成幼虫寄生葉率：やや少【30.40%/33.17%】(−) 気象予報：気温高(+) <a href="#">42</a>	
トウモモ	ハダニ類	多	成虫寄生葉率：多【16.53%/10.45%】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	−
ナシ	ハスモンヨトウ	やや多	幼虫寄生株率：並【0.00頭/0.00頭】 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多【2.88頭/2.03頭】(+) 気象予報：気温高(+) <a href="#">46</a>	
温州ミカン	黒星病	並	発病葉率：並【1.06%/1.02%】 発病果率：並【1.06%/0.79%】 気象予報：降水量並	<a href="#">24</a>
ビワ	シンクイムシ類	多	被害果率：並【0.00%/0.00%】 5月フェロモントラップ誘殺数：多【1.65頭/0.62頭】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<a href="#">25</a>
果樹共通	ハマキムシ類	やや多	被害葉率：並【0.03%/0.06%】 被害果率：多【0.03%/0.00%】(+) 5月フェロモントラップ誘殺数：並【1.88頭/2.16頭】 気象予報：気温高(+) 降水量並	<a href="#">26</a>
	アブラムシ類	並	寄生新梢率：やや少【0.24%/3.66%】(−) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<a href="#">24</a>
温州ミカン	そうか病	多	発病葉率：多【3.40%/0.68%】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<a href="#">26</a>
	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【9.80%/5.04%】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<a href="#">28</a>
	灰斑病	並	発病葉率：やや少【0.50%/2.28%】(−) 気象予報：気温高(+) 降水量並	−
	カメムシ類	多	5月フェロモントラップ誘殺数：多【9.18頭/4.41頭】(+) 5月予察灯誘殺数：やや少【5.8頭/17.2頭】(−) 気象予報：気温高(+) <a href="#">28</a>	

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

\* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) イネカメムシ（イネ）

[令和6年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」](#)も参照。



- (2) 黒星病（ナシ）

[令和4年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」](#)も参照。



- (3) カメムシ類（果樹共通）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）越冬後成虫多発生のおそれ」](#)も参照。



## II これから注意を要する病害虫

### ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウ（写真）は極めて広食性の害虫で、多発するとほとんどの野菜類、花き類や果樹にまで被害を及ぼす。野菜ではネギ、ニンジン、トマト、ダイコン、キャベツ、イチゴ、サトイモ、ヤマノイモ、ナス、ハクサイ、ピーマン等での加害が普遍的に見られる。

卵は雌成虫の鱗毛で覆われた状態で、葉裏に卵塊で産み付けられる。ふ化直後の幼虫は、産卵場所付近を集団でカスリ状に食害する（写真1）。3齢幼虫以降は分散し、食害量も増加するので穴あきの被害となる（写真2）。

県内12地点で実施しているフェロモントラップ調査における誘殺数が、本年は平年より多く推移している（図）。気象庁の3か月予報（5月21日発表）によると、関東甲信地方の6～8月の平均気温は高い確率60%と予想されていることから、ハスモンヨトウの発生に好適な環境が維持されると予測され、野菜類を中心に被害が多くなる恐れがある。



写真1 ふ化直後の幼虫による食害（カスリ状）

写真2 中齢幼虫による食害（穴あき）

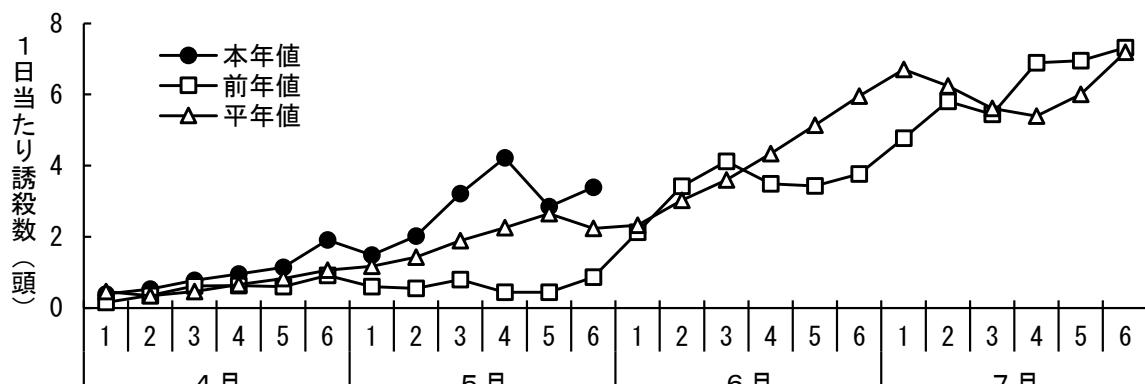


図 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移（4～7月、半旬毎）

注) 県内12地点の平均値

#### <防除対策>

- (1) ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- (2) 成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾灯（黄色灯）の夜間点灯を行う。
- (3) ほ場をよく観察し、卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- (4) 中齢幼虫（写真2）以降になると薬剤の防除効果が著しく低下するため、発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。

## ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイは、ナシをはじめ、ウメ、モモなど多くの果樹に被害を及ぼすチョウ目の害虫であり、特にナシでは幼虫が主に果実内を食害し、被害を与える。

県内4か所のナシ園に設置しているフェロモントラップの誘殺数は、4月に平年を大きく上回り推移し、5月下旬頃にも平年値の2倍以上となった（図）。

また、気象庁の3か月予報（5月21日発表）によると、関東甲信地方の6～8月の平均気温は高い確率60%と予想されていることから、今後も本虫は高い密度で推移する可能性がある。

7月頃から収穫期にかけては幼虫がナシなどの果実を食害するため、注意が必要である。

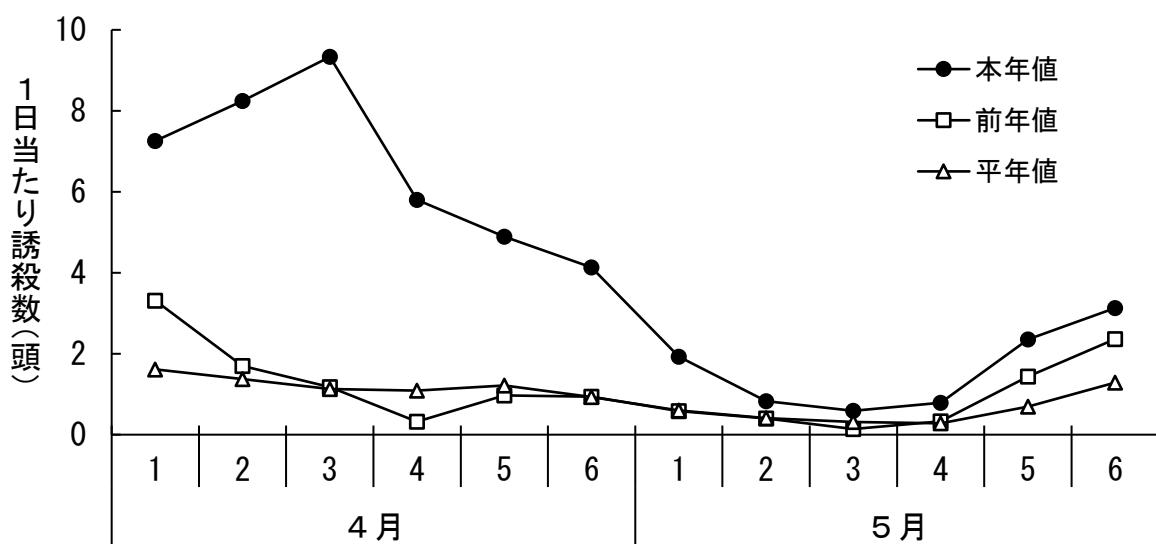


図 フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ誘殺数の推移（4～5月、半旬毎）

注) 県内4地点の平均

### <生態と被害>

ナシをはじめ、ウメ、モモなど多くの果樹に被害を及ぼす。

老齢幼虫がナシやモモなどの枝幹の粗皮の割れ目などに繭を作って越冬する。越冬幼虫は3月頃に蛹化、4月頃に成虫が発生し始め、ウメやモモ、サクラなどに産卵する。

ふ化した幼虫が、5月頃から主にウメ、モモ、サクラなどの新梢を加害し、芯折れなどの被害を発生させる。これらの果樹や樹木が少ない場合、ナシでも同様の被害が発生することもあるが、この時期はナシ園での被害は比較的少ない。

7月以降になると、次の世代以降の幼虫がナシなどの果実内に食入、加害するため、被害が大きくなる。また、世代を重ねるごとに密度が高まる傾向にあるため、収穫の遅い品種でより被害が大きくなりやすい。

＜防除対策＞

- (1) 表を参考に薬剤防除する。ナシの果実への産卵や幼虫による食害を防ぐため、7月頃からの薬剤防除が特に重要である。ただし、収穫期の薬剤散布は、収穫前日数に注意する。
- (2) 被害果や芯折れなどを見つけた場合、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) ウメ、モモ等の被害にも注意する。
- (4) 冬季に粗皮削りを実施し、越冬場所を減らす。

表 ナシにおけるシンクイムシ類の防除（6月下旬から冬季）※1

時期 ※2	IRAC コード ※3	薬剤名または防除方法	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数 ※4
6月下旬	1 A	オリオン水和剤40	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内
7月上旬	3 A	テルスタークロアブル	3,000倍	収穫前日まで	2回以内
7月中旬～下旬	28	サムコルクロアブル10	5,000倍	収穫前日まで	3回以内
8月上旬		バンド誘殺開始 ※5			
8月中旬	3 A	ロディー水和剤	1,000倍	収穫前日まで	2回以内
10月以降		バンドの処分 ※5			
1月～2月		粗皮削り			

※1 表の内容は、『令和6年版農作物病害虫雑草防除指針(千葉県)（幸水・豊水・その他赤ナシ）』から、シンクイムシ類が対象となる部分を抜粋したものである。

※2 時期の欄の記載は目安であるが、参考にして適期防除に努める。

※3 IRACコードとは、殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※4 薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※5 バンド誘殺とは、枝幹部に布などを巻き付けて（バンド巻き）、冬季に越冬のために集まった害虫をバンドごと処分する方法である。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### III 参考資料

#### ○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稻・サツマイモ・サトイモ・スイカ: 6月上旬、果樹: 5月下旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	葉いもち発病度	0.00	0.01	0.00	
	ばか苗病	発病株率 (%)	0.06	0.07	0.06	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネミズゴウムシ	被害度	10.94	8.46	8.73	
	イネゾウムシ	被害度	2.09	1.63	1.77	
	イネドロオイムシ	被害度	5.69	2.14	2.16	
	スクミリンゴガイ	被害株率 (%)	5.03	1.53	2.57	
		1 m <sup>2</sup> 当たり個体数	0.44	0.28	0.42	
		発生ほ場率 (%)	20.00	14.62	20.00	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.06	0.14	0.00	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫数	0.01	0.01	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.14	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.99	0.54	1.01	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.04	0.01	0.07	
サツマイモ (印旛、香取)	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率 (%)	0.20	0.40	0.00	
スイカ (山武、印旛)	つる枯病	発病葉率 (%)	0.40	0.24	0.60	
	うどんこ病	発病葉率 (%)	7.20	3.24	3.20	
	アブラムシ類	発病株率 (%)	14.80	5.40	8.40	
	ハダニ類	成幼虫寄生葉率 (%)	4.60	5.48	4.80	
		成虫寄生葉率 (%)	5.00	4.86	2.80	
サトイモ (山武、印旛、君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	30.40	33.17	37.33	
	ハダニ類	成幼虫寄生程度	8.33	8.89	9.60	
	ハスモンヨトウ	成虫寄生葉率 (%)	16.53	10.45	5.87	
		成虫寄生程度	7.40	3.31	1.60	
		幼虫寄生株率	0.00	0.00	0.00	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	1.06	1.02	0.29	
	赤星病	発病葉率 (%)	0.03	0.10	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.03	0.06	0.06	
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.24	3.66	0.62	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.01	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	1.00	0.15	0.40	
	かいよう病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	9.80	5.04	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	2.60	1.00	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.80	0.62	0.60	
	カメムシ類	払落虫数	0.00	2.12	0.00	
ピワ (安房)	灰斑病	発病葉率 (%)	0.50	2.28	5.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.10	0.25	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.40	0.00	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考 *
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	25.8	27.5	5.2	頭/月
	セジロウンカ	"	0.0	0.0	0.0	
	トビイロウンカ	"	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	"	0.6	0.1	0.0	
	フタオビコヤガ	"	0.0	0.2	1.0	
	ニカメイガ	"	16.1	1.9	11.3	
	イネクロカメムシ	"	17.1	27.5	59.4	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	"	0.6	1.3	2.3	
	アカスジカスミカメ	"	15.8	18.5	17.1	
	ミナミアオカメムシ	"	0.0	0.0	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	1.0	1.0	1.0	頭/月
	クサギカメムシ	"	1.0	1.2	1.0	
	ツヤアオカメムシ	"	3.9	15.1	0.0	
	カメムシ類	"	5.8	17.2	1.9	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.35	0.39	0.21	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.18	0.07	0.02	
	コナガ	海匝	3.89	6.20	3.64	
	ハスモンヨトウ	県内全域	2.88	2.03	0.61	
	シロイチモジョトウ	東葛、安房、君津	0.63	0.12	0.16	
	オオタバコガ	県内全域	2.05	0.76	1.78	
	タバコガ	県内全域	0.25	0.15	0.17	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.65	0.62	0.92	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.65	0.62	0.92	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.67	0.77	0.67	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.21	1.39	1.27	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.88	2.16	1.94	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	6.79	3.69	0.95	頭/日
	ツヤアオカメムシ	"	1.70	0.37	0.04	
	クサギカメムシ	"	0.69	0.34	0.06	
	カメムシ類	"	9.18	4.41	1.06	
	マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）	"	1.35	0.75	0.47	

\* 種類別の単位の違いに注意。月は30日当たりに補正。

## ○気象予報

6月13日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

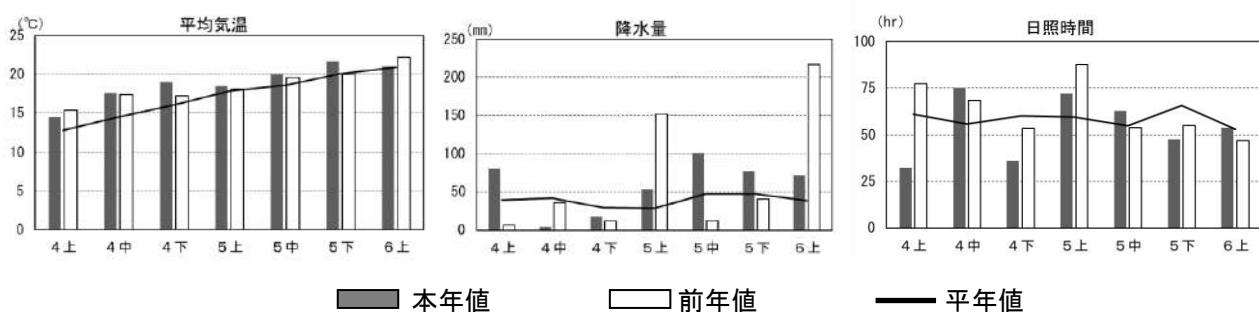
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(6月15日～7月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(℃)	23.7	21.7	23.3
降水量(mm)	163.5	169.8	226.6
日照時間(hr)	127.1	136.2	134.9



過去2か月の気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

6～8月は農薬危害防止月間です。

農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 無登録農薬の使用はできません。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は7月17日です。

なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)



令和6年7月17日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が6月下旬～7月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (6月下旬～7月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	いもち病 (穂いもち)	並	葉いもち発病株率：並【6.86%/5.68%】 気象予報：気温高（-）降水量並か多（+）	<a href="#">17</a>
	紋枯病	やや多	発病株率：並【0.00%/0.07%】 前年8月下旬発病株率：並【5.51%/6.83%】 気象予報：気温高（+）	<a href="#">19</a>
	ごま葉枯病	並	発病株率：やや少【0.51%/2.56%】（-） 気象予報：降水量並か多（+）	<a href="#">18</a>
	セジロウンカ	多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：多【0.73頭/0.10頭】（+） 6月予察灯誘殺数：並【0.0頭/0.3頭】 気象予報：気温高（+）	<a href="#">20</a>
	ヒメトビウンカ	多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：やや多【2.37頭/1.29頭】（+） 6月予察灯誘殺数：並【0.3頭/1.5頭】 気象予報：気温高（+）	<a href="#">21</a>
	大型斑点米カムシ類	多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：やや多【1.04頭/0.45頭】（+） 雑草地すくい取り捕獲成幼虫数：多【8.21頭/1.83頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">21</a>
	カスミカメムシ類	多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：やや多【0.40頭/0.22頭】（+） 雑草地すくい取り捕獲成幼虫数：多【71.96頭/24.15頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">21</a>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (6月下旬～7月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	寄生幼虫数：並【0.20頭/0.12頭】 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	<a href="#">22</a>
	イモキバガ	やや少	寄生幼虫数：やや少【0.00頭/0.30頭】（-） 被害葉率：少【0.40%/1.68%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	-
ラッカセイ	白絹病	やや多	発病株率：やや多【0.10%/0.05%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（+）	-
	褐斑病	並	発病度：並【4.40/4.77】 気象予報：降水量並か多（+）	-
秋冬ネギ	さび病	並	発病度：並【0.75/1.46】 気象予報：気温高（-）	<a href="#">34</a>
	ネギアザミウマ	並	寄生株率：並【16.50%/19.31%】 気象予報：気温高（+）	<a href="#">34</a>
	ネギコガ	並	被害株率：並【0.00%/0.16%】 気象予報：気温高（+）	<a href="#">35</a>
	シロイチモジヨトウ	多	被害株率：多【2.00%/0.00%】（+） 6月フェロモントラップ誘殺数：多【2.04頭/0.17頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">46</a>
サトイモ	アブラムシ類	やや少	成幼虫寄生程度：少【15.27/21.00】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	<a href="#">42</a>
	ハダニ類	多	成虫寄生程度：多【27.40/15.13】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	-
野菜花き共通	ハスモンヨトウ	やや多	6月フェロモントラップ誘殺数：並【4.51頭/4.09頭】 被害株率（秋冬ネギ）：並【0.00%/0.00%】 幼虫寄生株率（サトイモ）：多【1.87%/0.16%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	<a href="#">46</a>
	オオタバコガ	多	6月フェロモントラップ誘殺数：多【2.72頭/0.93頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	<a href="#">45</a>
ナシ	黒星病	やや多	発病葉率：並【1.82%/1.76%】 発病果率：やや多【1.44%/0.93%】（+） 気象予報：降水量並か多（+）	<a href="#">24</a>
	シンクイムシ類	多	被害果率：並【0.00%/0.00%】 6月フェロモントラップ誘殺数：多【3.50頭/1.34頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	<a href="#">25</a>
	ハマキムシ類	多	被害葉率：やや多【0.09%/0.04%】（+） 6月フェロモントラップ誘殺数：多【3.40頭/2.08頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	<a href="#">26</a>
	ハダニ類	やや多	成虫寄生葉率：やや多【0.50%/0.09%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	<a href="#">25</a>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (6月下旬～7月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
温州ミカン	そうか病	多	果実発病度：多【0.84/0.16】（+） 葉の発病度：多【0.68/0.20】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並或多（+）	<a href="#">26</a>
	ミカンハダニ	並	成虫寄生葉率：並【0.60%/6.52%】 気象予報：気温高（+）降水量並或多（-）	<a href="#">28</a>
果樹共通	カメムシ類	多	6月予察灯誘殺数：並【10.0頭/13.5頭】 6月フェロモントラップ誘殺数：やや多【27.29頭/10.14頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">28</a>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

\* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 斑点米カメムシ類（イネ）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第2号「大型斑点米カメムシ類、カスミカメムシ類による斑点米発生に注意」](#)も参照する。



- (2) イネカメムシ（イネ）

[令和6年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」](#)も参照する。



- (3) オオタバコガ（野菜花き共通）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第3号「オオタバコガの多発に注意」](#)も参照する。



- (4) シロイチモジョトウ（ネギ）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第4号「シロイチモジョトウによるネギの食害に注意」](#)も参照する。



## II 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稻・サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ: 7月上旬、果樹: 6月下旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病 (葉いもち)	発病株率 (%)	6.86	5.68	7.03	
	紋枯病	発病株率 (%)	0.00	0.07	0.00	
	ごま葉枯病	発病株率 (%)	0.51	2.56	0.91	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.99	0.55	0.17	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.03	0.02	0.00	
	ニカメイガ	被害株率 (%)	0.17	0.14	1.14	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.04	0.16	0.07	
	セジロウンカ	本田すくい取り捕獲成幼虫数	0.73	0.10	0.05	
	ヒメトビウンカ	本田すくい取り捕獲成幼虫数	2.37	1.29	6.02	
	ツマグロヨコバイ	本田すくい取り捕獲成幼虫数	0.16	0.54	0.25	
	フタオビコヤガ	本田すくい取り捕獲成幼虫数	0.24	0.19	0.04	
	大型斑点米カメムシ類	本田すくい取り捕獲成幼虫数	1.04	0.45	2.06	
	カスミカメムシ類	本田すくい取り捕獲成幼虫数	0.40	0.22	0.16	
	クモヘリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	2.63	0.50	3.69	
	ホソハリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	3.97	0.97	1.76	
	イネカメムシ	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	0.31	0.02	0.03	
	シラホシカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	1.29	0.31	0.24	
	ミナミアオカメムシ	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	0.01	0.03	0.00	
	大型斑点米カメムシ類	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	8.21	1.83	5.71	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	12.81	3.08	2.53	
	アカスジカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	59.14	21.07	12.40	
	カスミカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲成幼虫数	71.96	24.15	14.93	
サツマイモ (印旛・香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.20	0.12	0.00	
	イモキバガ	寄生幼虫数	0.00	0.30	0.00	
	イモキバガ	被害葉率 (%)	0.40	1.68	0.60	
ラッカセイ (千葉・君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	4.40	4.77	4.00	
	黒渋病	発病度	0.00	0.02	0.10	
	白綿病	発病株率 (%)	0.10	0.05	0.00	
秋冬ネギ (長生・山武)	黒斑病	発病度	0.25	0.50	0.14	
	さび病	発病度	0.75	1.46	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	ネギアザミウマ	寄生株率 (%)	16.50	19.31	6.29	
	ハスマンヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率 (%)	2.00	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.13	1.26	0.00	
サトイモ (山武・印旛・君津)	ハスマンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	1.87	0.16	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	15.27	21.00	15.33	
	ハダニ類	成虫寄生程度	27.40	15.13	18.93	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	1.82	1.76	1.09	
	黒星病	発病果率 (%)	1.44	0.93	0.50	
	赤星病	発病葉率 (%)	0.03	0.24	0.06	
	シンクイムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.09	0.04	0.06	
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	0.50	0.09	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	3.26	4.41	3.53	
	ニセナシサビダニ	被害新梢率 (%)	0.38	4.40	2.21	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.84	0.16	0.40	
	かいよう病	葉の発病度	0.68	0.20	1.04	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	0.60	6.52	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.30	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.40	0.18	0.00	

トラップ月間誘殺数（6月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	2.7	2.9	9.7	頭/月
	セジロウンカ	"	0.0	0.3	0.0	
	トビイロウンカ	"	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	"	0.3	1.5	1.7	
	ツマグロヨコバイ	"	69.3	133.4	7.0	
	フタオビコヤガ	"	1.7	1.6	2.0	
	ニカメイガ	"	2.7	0.7	2.0	
	コブノメイガ	"	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	"	1.3	4.2	4.0	
	クモヘリカメムシ	"	1.7	0.1	0.0	
	ホソハリカメムシ	"	0.3	0.2	0.0	
	イネカメムシ	"	7.3	0.7	2.3	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	"	12.3	10.9	12.3	
	アカスジカスミカメ	"	89.7	24.8	14.7	
	ミナミアオカメムシ	"	2.0	0.2	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	4.0	2.6	1.0	頭/月
	クサギカメムシ	"	4.0	2.9	0.0	
	ツヤアオカメムシ	"	2.0	8.0	3.0	
	カメムシ類	"	10.0	13.5	4.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	6.48	5.97	6.18	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.32	0.31	0.29	
	コナガ	海匝	1.35	5.59	1.90	
	ハスモンヨトウ	県内全域	4.51	4.09	3.39	
	シロイチモジョトウ	県内全域	2.04	0.17	0.34	
	オオタバコガ	県内全域	2.72	0.93	1.75	
	タバコガ	県内全域	0.66	0.38	0.47	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	3.50	1.34	1.98	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.00	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	3.50	1.34	1.98	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.46	0.42	0.33	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	2.94	1.65	1.80	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	3.40	2.08	2.13	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	県内全域	25.09	9.49	2.57	頭/日
	ツヤアオカメムシ	"	0.55	0.14	0.04	
	クサギカメムシ	"	1.65	0.51	0.15	
	カメムシ類	"	27.29	10.14	2.76	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	"	1.99	1.36	1.04	

注) 種類別の単位の違いに注意

## ○気象予報

7月11日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

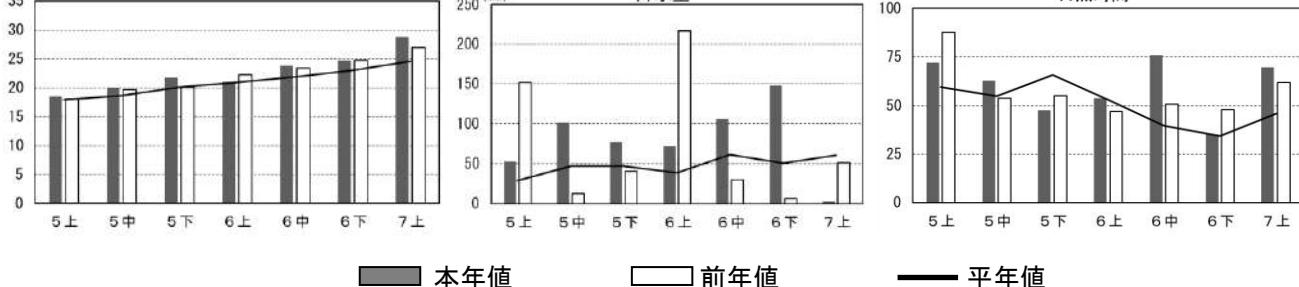
出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(7月13日～8月12日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.7	24.7	26.2
降水量(mm)	98.7	87.4	118.0
日照時間(hr)	184.4	207.5	208.1

出典：気象庁ホームページ



過去2か月の気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は8月20日です。

なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)



令和6年8月20日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が7月下旬～8月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (7月下旬～8月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	いもち病 (穂いもち)	並	発病穂率：並【0.01%/0.03%】 気象予報：気温高（-）降水量並	<a href="#">17</a>
	紋枯病	やや多	発病度：やや多【1.56/1.13】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">19</a>
	ごま葉枯病	やや多	発病度：やや多【2.20/1.61】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">18</a>
	大型斑点米力 メムシ類	多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：多【3.04頭/1.49頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">21</a>
	カスミカメム シ類	やや多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：並【1.23頭/1.24頭】 7月予察灯誘殺数：多【124.9頭/58.7頭】（+） 気象予報：気温高（+）	<a href="#">21</a>
サツ	ナカジロシタ バ	並	寄生幼虫数：やや少【0.00頭/0.36頭】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">22</a>
マイモ	イモキバガ (イモコガ)	やや少	寄生幼虫数：少【0.00頭/0.70頭】（-） 被害葉率：少【0.00%/6.02%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並	-
ラツカセイ	褐斑病	並	発病度：やや少【6.70/11.43】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並	-

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (7月下旬～8月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
夏秋トマト	黄化葉巻病	多	発病株率：やや多【0.40%/0.24%】(+) タバココナジラミ成虫寄生株率：やや多【2.40%/0.74%】(+) <a href="#">31</a>	
	オンシツコナジラミ	並	成虫寄生株率：並【1.60%/2.44%】 気象予報：気温高(−) 降水量並 <a href="#">33</a>	
	タバココナジラミ	やや多	成虫寄生株率：やや多【2.40%/0.74%】(+) 気象予報：気温高(−) 降水量並 <a href="#">33</a>	
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	やや多	寄生株率：並【23.20%/32.26%】 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">34</a>	
	ネギハモグリバエ	やや少	被害度：少【0.00/2.77】(−) 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">35</a>	
	シロイチモジヨトウ	多	被害株率：多【1.20%/0.08%】(+) 7月フェロモントラップ誘殺数：多【3.09頭/1.41頭】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">-</a>	
サトイモ	アブラムシ類	並	成幼虫寄生程度：やや少【11.33/14.65】(−) 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">42</a>	
	ハダニ類	並	成虫寄生程度：並【9.87/15.61】 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">-</a>	
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	やや多	寄生幼虫数(サツマイモ)：並【0.00頭/0.00頭】 幼虫寄生株率(サトイモ)：多【7.20%/0.00%】(+) 被害株率(夏秋トマト)：並【0.00%/0.00%】 " (秋冬ネギ)：並【0.00%/0.00%】 7月フェロモントラップ誘殺数：やや多【9.09頭/6.25頭】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">46</a>	
	タバコガ類	多	7月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：多【3.75頭/1.41頭】(+) タバコガ：やや多【1.07頭/0.60頭】(+) タバコガ類幼虫寄生株率(夏秋トマト)：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高(+) <a href="#">45</a>	
ナシ	シンクイムシ類	多	被害果率：やや多【0.03%/0.01%】(+) 7月フェロモントラップ誘殺数：多【2.98頭/1.44頭】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">25</a>	
	ハマキムシ類	やや多	被害葉率：やや多【0.12%/0.06%】(+) 被害果率：並【0.00%/0.01%】 7月フェロモントラップ誘殺数：並【1.61頭/1.61頭】 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">26</a>	
	ハダニ類	多	成虫寄生葉率：多【2.24%/0.39%】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並 <a href="#">25</a>	
温州ミカン	ミカンハダニ	並	成虫寄生葉率：並【2.40%/9.74%】 気象予報：気温高(−) 降水量並 <a href="#">28</a>	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (7月下旬～8月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
果樹共通	カメムシ類	やや多	被害果率（ナシ）：多【0.26%/0.07%】（+） ”（カンキツ）：並【0.00%/0.02%】 7月予察灯誘殺数：並【51.3頭/33.7頭】 7月フェロモントラップ誘殺数：やや多【95.83頭/25.76頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	<u>28</u>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

\* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 斑点米カメムシ類（イネ）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第2号「大型斑点米カメムシ類、カスミカメムシ類による斑点米発生に注意」](#)も参照する。



- (2) 黄化葉巻病・コナジラミ類（夏秋トマト）

[令和5年度病害虫発生予察注意報第2号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」](#)も参照する。



- (3) シロイチモジヨトウ（秋冬ネギ）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第4号「シロイチモジヨトウによるネギの食害に注意」](#)も参照する。



- (4) タバコガ類（野菜・花き共通）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第3号「オオタバコガの多発に注意」](#)も参照する。



- (5) シンクイムシ類（ナシ）

シンクイムシ類の発生が多く、被害果が散見されている。そのため、調製時には、果実をよく観察し、食入孔や虫糞があるものの出荷は控える。

また、被害果はほ場外へ持ち出し適切に処分する。

- (6) 果樹カメムシ類（果樹共通）

[令和6年度病害虫発生情報第1号「果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の発生状況について」](#)も参照する。



## II 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稻・夏秋トマト・果樹: 7月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ: 8月上旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病 (穂いもち)	発病穂率 (%)	0.01	0.03	0.00	
	紋枯病	発病度	1.56	1.13	0.67	
	縞葉枯病	発病株率 (%)	0.40	0.82	1.26	
	ごま葉枯病	発病度	2.20	1.61	1.31	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	2.46	0.34	0.00	
	ニカメイガ	被害株率 (%)	0.06	0.07	0.17	
	コブノメイガ	上位 2葉被害葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	2.70	3.32	0.06	
	トビイロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.02	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	114.89	31.47	64.80	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	37.06	26.14	19.54	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.76	0.84	1.46	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.33	0.16	0.13	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.83	0.41	0.53	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.09	0.05	0.07	
	ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.04	0.02	0.00	
	大型斑点米カメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	3.04	1.49	2.19	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.08	0.04	
	アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.23	1.17	0.60	
	カスミカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.23	1.24	0.64	
サツマイモ (印旛、香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.00	0.36	0.20	
	イモキバガ	寄生幼虫数	0.00	0.70	0.20	
	ハスモンヨトウ	被害葉率 (%)	0.00	6.02	5.00	
		寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00	
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	6.70	11.43	9.60	
	黒汎病	発病度	0.00	0.12	0.30	
	白絹病	発病株率 (%)	0.60	0.56	0.30	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	0.20	1.22	0.00	
	さび病	発病度	0.00	0.17	0.00	
	白絹病	発病株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギアザミウマ	寄生株率 (%)	23.20	32.26	22.40	
	ハスモンヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率 (%)	1.20	0.08	0.80	
	ネギコガ	被害株率 (%)	0.00	0.25	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.00	2.77	0.70	
夏秋トマト (印旛)	黄化葉巻病	発病株率 (%)	0.40	0.24	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	1.60	2.44	2.40	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	2.40	0.74	3.20	
サトイモ (山武、印旛、君津)	疫病	発生程度	0.40	2.17	0.73	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	11.33	14.65	13.47	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	7.20	0.00	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生程度	9.87	15.61	29.73	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	1.32	1.59	1.03	
	シンクイムシ類	被害果率 (%)	0.03	0.01	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.12	0.06	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	2.24	0.39	0.18	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.88	1.69	1.44	
	ニセナシサビダニ	被害新梢率 (%)	0.00	0.34	0.00	サビ症状
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.26	0.07	0.21	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.16	0.41	0.28	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	2.40	9.74	24.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	4.00	0.36	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.20	0.26	1.00	

トラップ月間誘殺数（7月）\*種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	905.8	111.0	38.5	頭/月
	セジロウンカ	"	1.0	1.5	0.5	安房が欠
	トビイロウンカ	"	0.0	0.0	0.0	調のため
	ヒメトビウンカ	"	45.5	8.4	4.5	安房を除
	ツマグロヨコバイ	"	10,533.4	698.7	605.0	いた2地
	フタオビコヤガ	"	11.1	27.0	4.0	点の平均
	ニカメイガ	"	8.2	12.9	56.0	値。
	コブノメイガ	"	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	"	4.8	4.0	7.0	
	クモヘリカメムシ	"	15.0	1.6	5.5	
	ホソハリカメムシ	"	4.8	1.9	5.5	
	シラホシカメムシ類	"	0.5	-	0.0	
	イネカメムシ	"	58.1	42.2	35.5	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	"	34.4	22.9	12.0	
	アカスジカスミカメ	"	90.5	35.8	34.0	
	ミナミアオカメムシ	"	9.7	0.9	2.5	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	19.4	15.7	10.6	頭/月
	クサギカメムシ	"	24.2	11.4	8.7	
	ツヤアオカメムシ	"	7.7	6.6	1.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	3.0	4.6	3.4	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	5.6	16.6	12.7	
	コナガ	海匝	0.2	1.3	0.3	
	ハスモンヨトウ	県内全域	9.1	6.3	6.2	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	3.1	0.5	1.5	
	オオタバコガ	県内全域	3.8	1.4	2.6	
	タバコガ	県内全域	1.1	0.6	1.1	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	3.0	1.4	2.8	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	3.0	1.4	2.8	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.1	0.5	0.5	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.5	1.1	1.1	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.6	1.6	1.6	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	93.2	25.4	1.0	頭/日
	ツヤアオカメムシ	"	1.1	0.1	0.0	
	クサギカメムシ	"	1.5	0.3	0.1	
	カメムシ類	"	95.8	25.8	1.1	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	"	0.2	0.3	0.4	

## ○気象予報

8月15日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

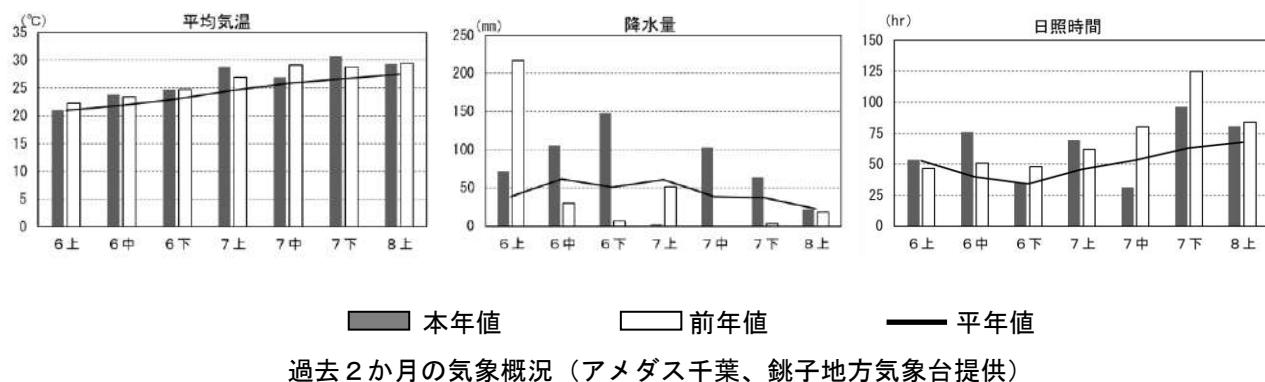
出典：気象庁ホームページ

([https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103\\_00.html](https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html))

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(8月17日～9月16日)

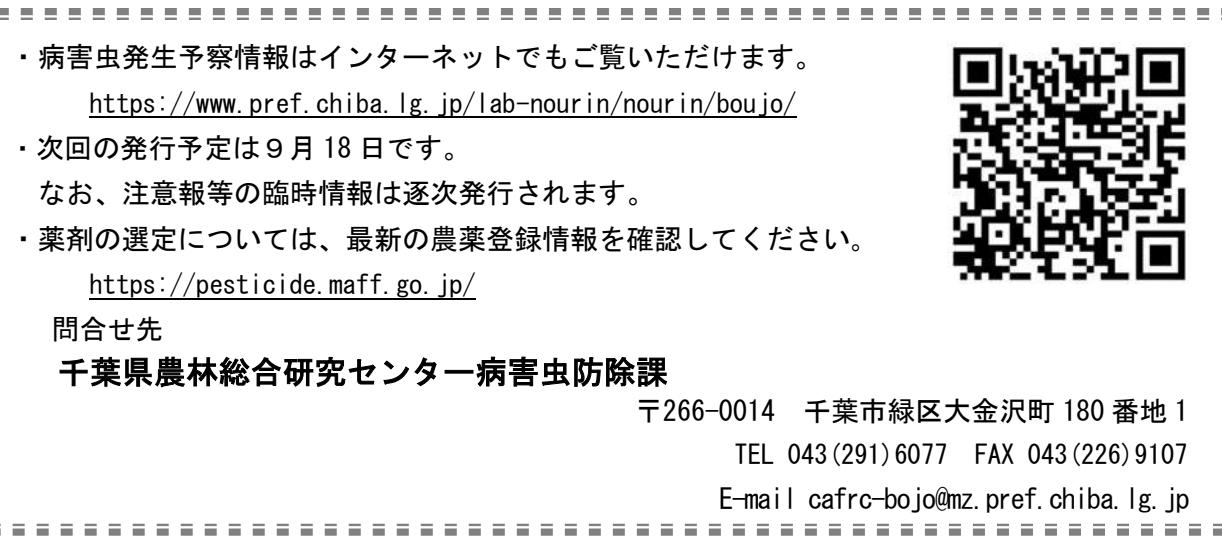
要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	25.9	24.9	25.7
降水量(mm)	178.3	154.8	169.1
日照時間(hr)	163.9	194.2	190.7



過去2か月の気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。



令和6年9月18日  
千葉県農林総合研究センター長

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が8月下旬～9月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。



### 千葉県総合防除計画（令和6年3月版）

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (8月下旬～9月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	寄生幼虫数：並【0.20頭/0.87頭】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<a href="#">22</a>
	イモキバガ	並	寄生幼虫数：並【0.20頭/1.21頭】 被害葉率：並【7.60%/6.61%】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	-
夏秋トマト	すすかび病	多	発病株率：多【17.20%/8.61%】（+） 気象予報：降水量多（+）日照時間並か少（+）	<a href="#">31</a>
	アザミウマ類	やや少	成幼虫寄生株率：やや少【0.00%/5.69%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<a href="#">32</a>
	黄化葉巻病	多	発病株率：多【16.20%/1.48%】（+） タバココナジラミ成虫寄生株率：多【46.80%/4.82%】（+）	<a href="#">31</a>
	タバココナジラミ	多	成虫寄生株率：多【46.80%/4.82%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<a href="#">33</a>
	オンシツコナジラミ	やや少	成虫寄生株率：やや少【2.00%/9.19%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<a href="#">33</a>
秋冬ネギ	黒斑病	やや少	発病度：少【0.00/1.88】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（+）日照時間並か少（+）	<a href="#">33</a>
	ネギアザミウマ	少	成幼虫寄生株率：少【5.60%/37.10%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<a href="#">34</a>
	ネギハモグリバエ	少	被害度：少【0.50/7.22】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<a href="#">35</a>
	シロイチモジヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数：多【6.98頭/1.58頭】（+） 被害株率：多【14.00%/0.40%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<a href="#">46</a>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (8月下旬～9月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	*
野菜・花き共通	コナガ	やや少	8月フェロモントラップ誘殺数：やや少【0.07頭/0.30頭】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<u>45</u>
	ハスモンヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数：やや多【17.61頭/12.32頭】（+） 100葉当たり寄生幼虫数（サツマイモ）：多【0.60頭/0.08頭】（+） 被害株率（秋冬ネギ）：並【0.00%/0.04%】 幼虫寄生株率（サトイモ）：多【32.00%/4.54%】（+） "（夏秋トマト）：並【0.00%/0.04%】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<u>46</u>
	タバコガ類	多	8月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：やや多【4.63頭/2.41頭】（+） タバコガ：やや多【1.50頭/0.87頭】（+） 幼虫寄生株率（夏秋トマト）：多【0.80%/0.16%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<u>45</u>
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【8.20%/3.21%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	<u>28</u>
	カメムシ類	やや多	被害果率：並【0.00%/0.00%】 8月予察灯誘殺数：並【59.0頭/47.0頭】 8月フェロモントラップ誘殺数：多【27.70頭/5.85頭】（+）	<u>28</u>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

\* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 黄化葉巻病・コナジラミ類（夏秋トマト）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照する。](#)



- (2) シロイチモジョトウ（秋冬ネギ）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第4号「シロイチモジョトウによるネギの食害に注意」も参照する。](#)



- (3) タバコガ類（野菜・花き共通）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第3号「オオタバコガの多発に注意」も参照する。](#)



## II これから注意を要する病害虫

### スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイは移植後の水稻を食害し、減収させる。本種は寒さに弱いが、水田内や水路等で越冬する貝があり、被害の目立つ年が増えている。本年は、スクミリンゴガイの被害株率が過去11年で最も高く（図）、九十九里地域を中心に、大きな被害を受けた水田が散見された（写真1）。

スクミリンゴガイは、薬剤による防除だけで被害を防ぐことが難しく、また、被害の多くは、水田の水深の深い場所に集中して発生することから（写真2）、浅水管理や秋冬期の整地等の耕種的対策、さらに耕うんによる物理的対策を組み合わせた「総合防除」を講じることが必要である。

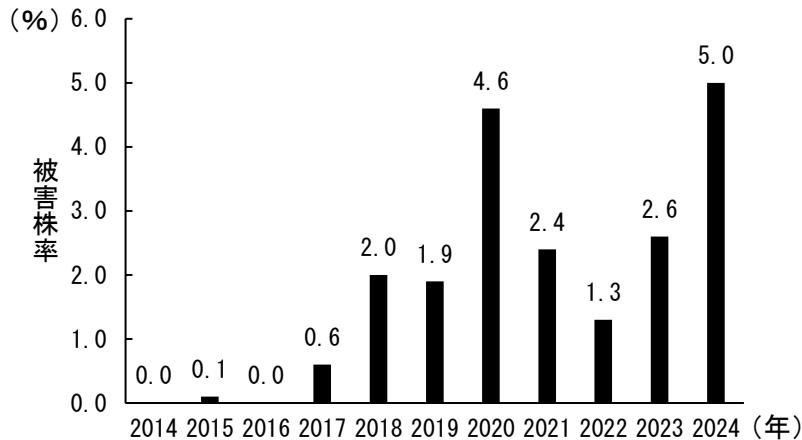


図 千葉県におけるスクミリンゴガイの被害率（6月上旬）の推移



写真1 甚被害が発生した水田



写真2 隣接した著しく被害程度の異なる水田

左：均平処理し、被害の少ない水田

右：凹凸があり、深い部分で被害の大きい水田

### 〈防除対策〉

#### 1 秋冬期の防除対策

##### （1）ほ場の均平化

冬期にフロントローダーや整地キャリア等を使用し、土を高いところから低いところへ移動させ、均平化を図る（レーザーレベラーによる均平化が図れればなお良い）。

##### （2）冬期の耕うんによる貝の破碎

冬期にロータリー耕をすることで、本種を物理的に破碎するとともに寒気にさらす。回転速度P T O 2速とし、時速1.4km以下で耕うんすることで、殺貝効果は上がり、耕うん回数を重ねるごとに貝の生存率は低下する。また、殺貝効果が最も高いのは、地面が固く締まっている1回目の耕うんであるため、初回の耕うんは可能な限り回転は速く、走行は遅く行う。

##### （3）水路の泥上げ

常に水や泥のある水路は冬でも暖かく、本種の越冬に最適な場所である。1～2月に泥上げし、掘り上げた泥は、ほ場に入らないように薄く広げ、貝を寒風にさらす、または潰すなどして生き残らないように処理する。

## 2 栽培期間中の食害防止対策

### (1) 浅水管理

本種は水中でしか食害できず、水深が浅いと活動が抑制されるため、食害を受けにくくなる5葉期（田植え後約3週間）まで、水深を4cm以下（理想は1cm）に維持する。

### (2) 薬剤による防除

本種の被害が発生する前の苗移植時に、薬剤を使用する。使用後、確実な効果を出すため、少なくとも3～4日間は湛水状態（水深3～5cm）を保ち、魚類、甲殻類等に影響が出ないよう7日間は落水、かけ流しを控える。また、食害防止効果を持つ薬剤を使用後に、食毒による効果のある薬剤を使用すると、十分な効果が得られないため注意する。

表 スクミリンゴガイに対する主な防除薬剤（令和6年9月11日現在）

IRACコード ※1	薬剤名	使用量	使用時期/使用回数 ※2	効果
14	パダン粒剤4	60～100g/箱	は種前または移植当日/1回	食害防止
		4kg/10a	収穫30日前まで/6回 ※3	
	スクミハンター	1～2kg/10a	収穫45日前まで/3回	食害防止
—	スクミンベイト3	2～8kg/10a	発生時/— ※4	殺貝(食毒) 食害防止
	スクミノン	1～4kg/10a	収穫60日前まで/（メタアルデヒドを含む農薬）2回	殺貝(食毒) 食害防止

※1 IRACコードとは、殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤は連用しない。

14: ネライストキシン類縁体

※2 薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、使用前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※3 パダン粒剤4の使用回数は苗箱処理の回数を含む。

※4 スクミンベイト3の有効成分はリン酸第二鉄であり、有機農産物の日本農林規格で使用が認められており、化学合成農薬の成分回数にカウントされない。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

## 3 その他

### (1) 未発生ほ場への拡散防止

本種の発生ほ場から、トラクター等を移動させる際は、爪やアタッチメントをよく洗浄し、未発生のほ場に持ち込まないよう注意する。

### (2) コンバインの操作方法の見直し

収穫時のコンバインの切り返しが、田面にV字模様状の凹凸を生み出す場合があるため、コンバインの操作方法（切り返しを穏やかにする等）を見直し、ほ場の均平化に努める。

### III その他の情報

#### ビワを加害するチャバネアオカメムシについて ~来年は中程度の発生が予想されます~

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、5月下旬から6月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。特にチャバネアオカメムシは発生量の年次変動が激しく、多発する年には甚大な被害を及ぼす。このため、前年に越冬後成虫の発生量を予測し、二重袋<sup>(注1)</sup>の手配など、早めの防除手段の選択に活かすことが重要である。

そこで、チャバネアオカメムシ早期発生予測モデル<sup>(注2)</sup>を用いて、2025年4～7月の南房総地域におけるチャバネアオカメムシの誘殺数を予測した結果、来年の発生量は本年よりも少なく、中程度<sup>(注3)</sup>の予想となった（図）。

ただし、果樹カメムシ類が飛来する量や時期は地域や場所により差があるので、飛来が始まる4月下旬以降に園内外をよく見回り、各場所での発生量に注意する。また、今後発表される発生予察情報にも留意する。

注1：二重袋は果実をパラフィン紙で筒状に覆い、さらに外側を慣行袋で包むことで、果樹カメムシ類が刺す外側の袋と果面の間に空間が確保され、吸汁が抑制される効果がある。

注2：本予測モデルは南房総地域のスギ雄花生産量（千葉県農林総合研究センター森林研究所の調査による）と果樹カメムシ類の集合フェロモントラップ誘殺数を用いて次年度の越冬成虫数を予測する式で、千葉県農林総合研究センターが開発した（詳細は [https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/h27\\_38-2.pdf](https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/h27_38-2.pdf) を参照）。

注3：予測モデルによる南房総地域におけるチャバネアオカメムシ越冬後予想発生量（4～7月）は、トラップ当たりの誘殺数が1～100頭未満の場合は少発生、100～1,000頭未満の場合は中程度の発生、1,000頭以上では多発と予想される。

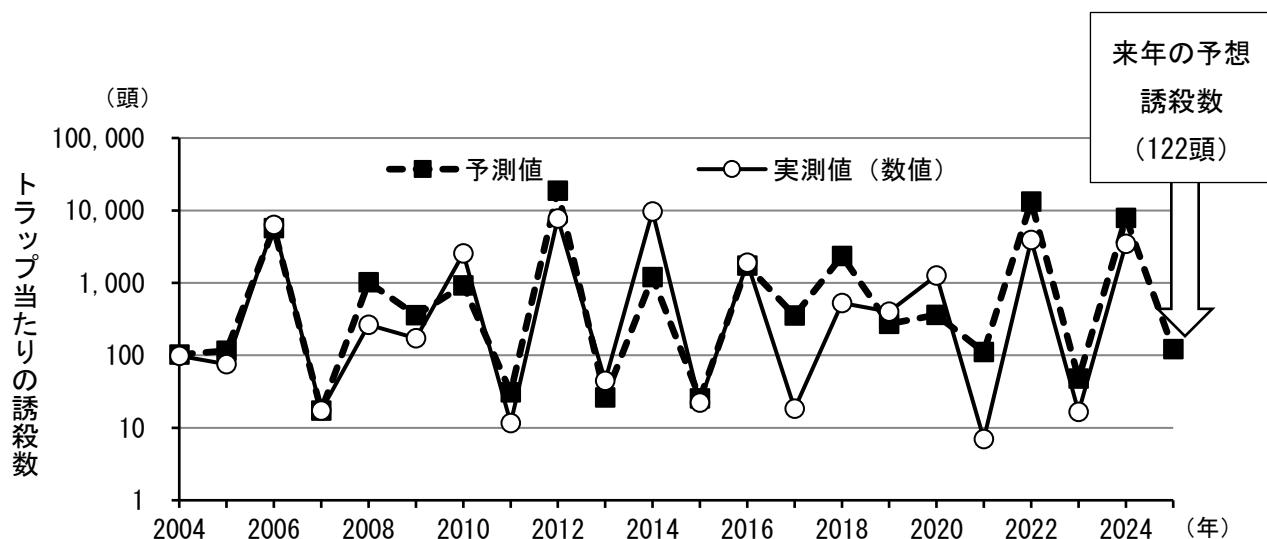


図 チバネアオカメムシフェロモントラップ予測誘殺頭数及び実測誘殺頭数の年次変動

## 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稻・果樹・夏秋トマト: 8月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ: 9月上旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.01	0.08	0.02	
	紋枯病	発病度	4.50	2.37	2.00	
	縞葉枯病	発病株率(%)	0.69	0.88	1.39	
	ごま葉枯病	発病株率(%)	15.37	12.65	11.94	
	稻こうじ病	発病株率(%)	0.00	0.30	0.06	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	2.23	0.30	0.13	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.11	0.05	0.23	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害苞数	0.00	0.00	0.00	
	コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.10	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.91	2.47	0.04	
	トビイロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	27.90	29.95	51.39	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	134.99	100.62	146.87	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.41	0.91	0.68	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.34	0.20	0.03	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.77	0.23	0.23	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.04	0.05	0.16	
	ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.06	0.02	0.00	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.02	0.03	
	アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.59	0.52	0.35	
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉当たり寄生幼虫数	0.60	0.08	0.00	
	ナカジロシタバ	100葉当たり寄生幼虫数	0.20	0.87	0.40	
	イモキバガ	100葉当たり寄生幼虫数	0.20	1.21	0.00	
	被害葉率(%)		7.60	6.61	2.40	
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.01	0.00	
	褐斑病	発病度	23.70	25.85	13.40	
	黒渋病	発病度	0.00	0.45	0.10	
	白絹病	発病株率(%)	4.50	2.69	2.10	
夏秋トマト (印旛、山武)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.18	1.00	
		発病果率(%)	0.00	0.00	0.00	
		果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	17.20	8.61	9.50	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	16.20	1.48	4.13	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.40	0.00	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率(%)	0.80	0.16	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	2.00	9.19	15.50	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	46.80	4.82	16.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.91	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	5.69	0.00	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	1.88	0.00	
	さび病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	11.00	26.06	12.70	
		成幼虫寄生株率(%)	5.60	37.10	11.60	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	シロイチモジョトウ	被害株率(%)	14.00	0.40	3.20	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.24	0.80	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.50	7.22	8.80	
サトイモ (山武、印旛、君津)	疫病	発生程度	20.59	18.88	14.64	
	汚斑病	発病葉率(%)	11.14	14.08	12.29	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	11.15	12.43	5.93	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	32.00	4.54	8.57	
	ハダニ類	成虫寄生程度	4.10	11.86	1.71	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	0.21	0.72	0.26	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.06	0.06	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生葉率 (%)	3.24	2.10	0.29	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.62	0.32	0.06	
	吸虫類	被害果率 (%)	0.08	0.08	0.09	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.92	0.18	0.73	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.28	0.20	0.48	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.09	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	8.20	3.21	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.60	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	1.20	0.37	0.00	

トラップ月間誘殺数（8月）\*種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	3.9	20.8	1.0	頭/月
	セジロウンカ	"	0.0	4.1	0.0	千葉が欠調
	トビイロウンカ	"	0.0	0.2	0.0	のため、千
	ヒメトビウンカ	"	13.1	22.3	18.9	葉を除いた
	ツマグロヨコバイ	"	7080.0	993.7	316.0	2地点の平
	フタオビコヤガ	"	52.3	29.5	12.1	均値
	ニカメイガ	"	7.7	9.8	57.1	
	コブノメイガ	"	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	"	154.4	45.6	17.4	
	クモヘリカメムシ	"	52.3	20.3	57.6	
	ホソハリカメムシ	"	8.7	2.5	4.4	
	シラホシカメムシ類	"	0.5	-	0.0	
	イネカメムシ	"	752.4	27.6	46.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	"	26.6	25.4	46.0	
	アカスジカスミカメ	"	111.8	116.8	119.5	
	ミナミアオカメムシ	"	97.3	44.5	10.2	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	25.2	18.8	24.2	頭/月
	クサギカメムシ	"	25.2	24.5	56.1	
	ツヤアオカメムシ	"	8.7	3.7	13.5	
	カメムシ類	"	59.0	47.0	93.9	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.27	2.16	1.67	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	2.33	15.63	5.32	
	コナガ	海匝	0.07	0.30	0.05	
	ハスモンヨトウ	県内全域	17.61	12.32	10.80	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	6.98	1.58	3.12	
	オオタバコガ	県内全域	4.63	2.41	4.69	
	タバコガ	県内全域	1.50	0.87	1.96	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	2.02	1.28	1.65	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.04	0.01	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	2.06	1.29	1.65	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.07	0.10	0.01	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.45	0.57	0.35	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.52	0.67	0.36	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	26.69	5.73	0.56	頭/日
	ツヤアオカメムシ	県内全域	0.41	0.05	0.01	
	クサギカメムシ	県内全域	0.60	0.07	0.01	
	カメムシ類	県内全域	27.70	5.85	0.58	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	県内全域	0.23	0.12	0.02	

## ○気象予報

9月12日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

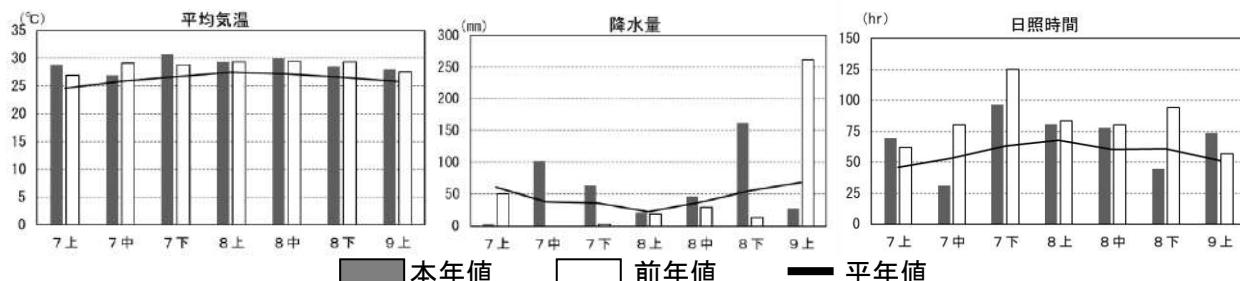
向こう1か月間の各気象要素の平年値

(9月14日～10月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	21.5	21.6	21.5
降水量(mm)	233.4	272.5	252.4
日照時間(hr)	121.8	137.9	133.4

出典：気象庁ホームページ

([https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103\\_00.html](https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html))



過去2か月の気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

**農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。**

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- 次回の発行予定は10月17日です。  
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)



令和6年10月17日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が9月下旬～10月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (9月下旬～10月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
夏秋トマト	灰色かび病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/2.33%】（-） 気象予報：降水量並か多（+）日照時間並か少（+）	<a href="#">31</a>
	すすかび病	並	発病株率：並【34.67%/36.79%】 気象予報：降水量並か多（+）日照時間並か少（+）	<a href="#">31</a>
	黄化葉巻病	多	発病株率：多【41.67%/3.24%】（+） 成虫寄生株率(タバココナジラミ)：多【48.44%/8.87%】（+）	<a href="#">31</a>
	タバココナジラミ	多	成虫寄生株率(タバココナジラミ)：多【48.44%/8.87%】（+） 成虫寄生株率(オンシツコナジラミ)： やや少【3.11%/18.56%】（-）	<a href="#">33</a>
	オンシツコナジラミ	やや少	9月黄色粘着トラップ誘殺数：多【2012.72頭/418.82頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	
	アザミウマ類	並	成幼虫寄生株率：やや少【0.00%/7.80%】（-） 9月黄色粘着トラップ誘殺数：並【4.44頭/25.58頭】 気象予報：気温高（+）	<a href="#">32</a>
冬キャベツ	黒腐病	やや多	本年4月発病度：並【0.00/0.10】 発病度：並【0.00/0.25】 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（+）	<a href="#">36</a>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (9月下旬~10月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
秋冬ネギ	黒斑病	少	発病度：少【0.00/4.57】(−) 気象予報：降水量並か多(+)	<a href="#">33</a>
	さび病	並	発病度：並【0.00/0.03】 気象予報：降水量並か多(+)	<a href="#">34</a>
	べと病	並	発病株率：並【0.00%/0.40%】 8月の日最低気温の平均値に基づく推定発生確率(ねぎべと病なび)(県北西部、北東部のアメダス地点)：0~25% (−) 気象予報：気温高(−)降水量並か多(+)日照時間並か少(+)	<a href="#">34</a>
	ネギアザミウマ	やや少	成幼虫寄生株率：やや少【18.40%/28.55%】(−) 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">34</a>
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率：並【0.53%/1.12%】 気象予報：日照時間並か少(+)	<a href="#">42</a>
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【3.20%/5.79%】 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">45</a>
温州ミカン	ミカンハダニ	多	成虫寄生株率：多【9.00%/1.90%】(+) 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">28</a>
	カメムシ類	並	払落虫数：やや少【0.00頭/0.94頭】(−) 9月予察灯誘殺数：並【11.0頭/33.9頭】 9月フェロモントラップ誘殺数：やや多【10.64頭/6.91頭】(+) 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">28</a>
ビワ	灰斑病	やや多	発病葉率：やや多【2.50%/1.63%】(+) 気象予報：気温高(+)降水量並か多(+)	−
カーネーション	アザミウマ類	少	被害株率：少【0.00%/14.83%】(−) 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	−
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【2.40%/4.91%】 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	−
野菜・花き共通	コナガ	少	寄生幼虫蛹数(冬キャベツ)：並【0.00頭/0.00頭】 9月フェロモントラップ誘殺数：少【0.04頭/0.51頭】(−) 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">45</a>
	ハスモンヨトウ	やや多	9月フェロモントラップ誘殺数：並【26.97頭/26.75頭】 被害株率(秋冬ネギ)：並【0.00%/0.28%】 " (イチゴ) : 多【25.87%/7.71%】(+) 幼虫寄生株率(夏秋トマト)：並【0.00%/0.04%】 " (イチゴ) : 並【1.87%/1.57%】 " (カーネーション) : 並【0.00%/0.40%】 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">46</a>
	シロイチモジヨトウ	多	9月フェロモントラップ誘殺数：多【11.32頭/2.62頭】(+) 被害株率(秋冬ネギ)：多【29.60%/2.37%】(+) 幼虫寄生株率(カーネーション)：並【0.00%/0.16%】 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">46</a>
	オオタバコガ	やや多	9月フェロモントラップ誘殺数：やや多【4.82頭/3.64頭】(+) 幼虫寄生株率(カーネーション)：並【0.00%/0.02%】 気象予報：気温高(+)降水量並か多(−)	<a href="#">45</a>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

\* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 黄化葉巻病・コナジラミ類（夏秋トマト）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照する。](#)



- (2) ハスモンヨトウ（野菜・花き共通）

P 4～5 「これから注意を要する病害虫」も参照する。

- (3) シロイチモジヨトウ（野菜・花き共通）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第4号「シロイチモジヨトウによるネギの食害に注意」も参照する。](#)



- (4) タバコガ類（野菜・花き共通）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第3号「オオタバコガの多発に注意」も参照する。](#)

P 6～7 「これから注意を要する病害虫（レタス オオタバコガ）」も参照する。



## II これから注意を要する病害虫

### ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウは、中齢以降の幼虫で薬剤の効果が低下しやすい「難防除害虫」の一種で、年により異常に多発する。幼虫がエサとする植物の種類は極めて多く、「畑作物」「野菜類」「花き類」だけでなく「果樹」にまで被害を及ぼすこともある。

本年は、春先からフェロモントラップへの誘殺が多い（図1）。また、9月下旬～10月上旬の巡回調査では、「夏秋トマト」「秋冬ネギ」「カーネーション」で幼虫寄生や被害は確認されなかったが、「イチゴ」では被害株率が「多」となったほか、「ナシ」で卵塊や幼虫の寄生があった。9月のフェロモントラップ調査では、1日当たりの誘殺数は26.97頭（平年値：26.75頭）で、「平年並」の発生であった。

2ページの病害虫発生予報では、向こう1か月間のハスモンヨトウの発生は平年よりやや多いと予想しており、注意が必要である。本県では10～11月の誘殺が多く、施設への飛び込みによる被害も懸念されるので、ほ場をよく観察し、発生初期からの防除を心掛ける。

#### ＜生態＞

卵は、数百個が一塊となって葉に産み付けられ、卵塊の表面は「雌成虫の体毛」によって覆われる（写真1）。

2齢幼虫までは斑紋がほとんど現れないが、3齢幼虫以降は第1腹環節の横に「1対の黒く明瞭な斑紋」が現れる（写真2・図2）。成長した幼虫の体色は、灰緑暗色・暗褐色など変化に富む。

成虫は、前翅に「斜めに交差して走る数条の淡褐色の縞模様」がある。

#### ＜加害＞

ふ化幼虫は、集団で表皮を残して食害する（写真3）。

3齢幼虫以降は、分散し、食害量が増加するので穴開きの被害となる。多発時には、太い葉脈と中肋のみが残るような、畑一面が丸坊主となる激しい被害となる。

#### ＜防除対策＞

- 1 常発地では、フェロモントラップを設置するなど、「発生消長の確認」に努める。
- 2 早期発見に努め、卵塊や分散前の若齢幼虫を捕殺する。
- 3 施設等では、開口部に防虫網を設置し、成虫の侵入を防止する。
- 4 薬剤による防除は、中齢幼虫以降になると薬剤の効果が低下するため、できるだけ若齢幼虫のうちに実行する。
  - (1) 周辺の作物での発生状況にも注意し、発生初期の防除を徹底する。
  - (2) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、IRACコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。
  - (3) 夜間活動し、昼間は下葉や葉裏などにひそんでいるので、薬剤散布は丁寧に行う。
- 5 成虫の飛来を抑制するために、夜間に黄色灯を点灯し、ほ場全面を明るく保つ方法がある。この場合、ほ場の明期が延長されることによって、作物の生長に影響を及ぼすことがあるので注意する。
- 6 性フェロモン剤を利用した防除では、被害発生前からの設置によって「交信かく乱法」により交尾率を下げ、産卵数を減少させることができることが期待できる。

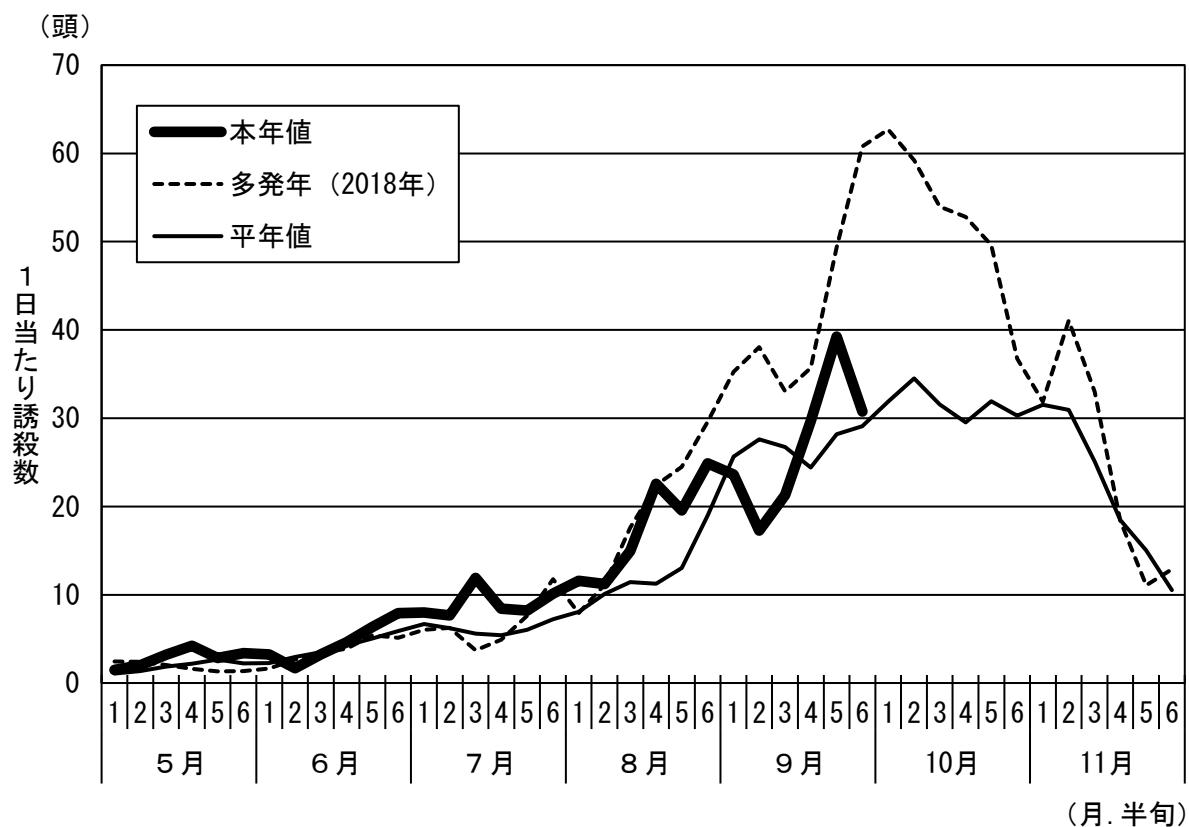


図1 ハスモンヨトウ雄成虫のフェロモントラップへの誘殺数の推移（県内12地点の平均）



写真1 卵塊



写真2 中齢幼虫



写真3 集団で食害する若齢幼虫



図2 中齢幼虫の形態

## レタス オオタバコガ

オオタバコガは、幼虫がレタスの結球内部に食入するため（写真1）、経済的な被害につながりやすい。幼虫は薬剤がかかりにくいため、中齢期以降は農薬に対する感受性が低いため、防除が困難な害虫である。

本年は初夏からフェロモントラップへの誘殺が多く（図）、6、7月の1日当たり誘殺数は過去8年で1位、8月は2位、9月は3位であった。また、10月10日に発表された気象庁の1か月予報によると、関東甲信地方の平均気温は高い見込みであることから、成虫（写真2）への羽化が続く可能性が高く、それにしたがって産卵も続くと考えられる。

以上のことから平年を上回る被害が予想されるため、注意する必要がある。

### <生態と加害>

年間の発生世代数は3～4回である。

卵は、葉上に卵塊ではなく1卵ずつ産み付けられ（写真3）、25°C条件では約3日でふ化する。

ふ化直後の幼虫は葉上で食害を加えるが、しばらくすると結球部に食入し内部を加害する。このため、外観から被害を確認することが難しい。



写真1 レタス結球内部を加害する終齢幼虫



写真2 成虫



写真3 卵

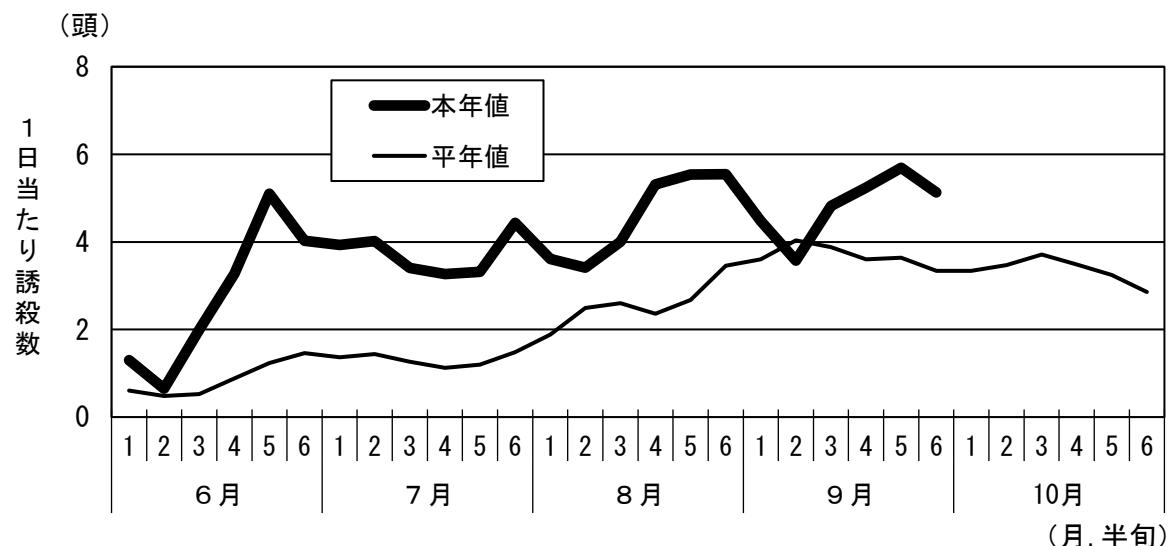


図 オオタバコガ雄成虫のフェロモントラップへの誘殺数の推移（県内8地点）

<防除対策>

- 1 食害痕や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- 2 薬剤（表）による防除は、中齢幼虫以降になると薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫のうちに行う。定植前日の灌注処理が効果的である。
- 3 防蛾用黄色灯の夜間点灯を行う。

<注意事項>

- 1 農薬（特に灌注剤）の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。
- 2 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、ローテーション散布を行う。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤（令和6年10月2日現在）

使用方法	I R A C コード ※1	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数 ※2
灌注	4 A・28	ジュリボフロアブル	200倍	育苗期後半～ 定植当日	1回
	28	ベリマークSC	400倍		
散布	5	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内
	6	アファーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
	15	カスケード乳剤	4,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	18	ファルコンフロアブル	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	2回以内
	22A	トルネードエースDF	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内
	22B	アクセルフロアブル	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	28	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	30	グレーシア乳剤	2,000～3,000	収穫3日前まで	2回以内
	UN	プレオフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内

※1 I R A C（殺虫剤抵抗性対策委員会）コード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

4 A：ネオニコチノイド系

5：スピンシン系

6：アベルメクチン系・ミルベマイシン系

13：ピロール・ジニトロフェノール・スルフルラミド

15：ベンゾイル尿素系

18：ジアシルヒドラジン系

22A：オキサジアジン

22B：セミカルバゾン

28：ジアミド系

30：メタジアミド系・イソオキサゾリン系

UN：活性に関わる標的タンパク質が不明あるいは不明確な剤

※2 薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分が含まれる場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。ジュリボフロアブルは2成分含まれるため、使用回数に注意する。

## ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：8月中下旬、果樹・花き：9月下旬、サツマイモ・野菜：9月下旬～10月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ	斑点米	発生粒率(%)	0.25	0.28	0.24	1.7mmで篩掛けした玄米5000粒で調査
	黒点米(黒点症状米を含む)	発生粒率(%)	0.11	0.03	0.08	
	その他着色粒	発生粒率(%)	0.22	0.21	0.08	
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉あたり寄生幼虫数	0.50	0.88	1.75	
	ナカジロシタバ	100葉あたり寄生幼虫数	0.25	0.48	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.00	1.80	5.25	
夏秋トマト (山武、印旛)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	2.33	0.00	
		発病果率(%)	0.00	0.03	0.00	
		果実発病度	0.00	0.40	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	34.67	36.79	15.11	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	41.67	3.24	6.11	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	3.11	18.56	28.44	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	48.44	8.87	15.11	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	1.92	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	7.80	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2,012.72	418.82	1,609.13	
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	4.44	25.58	2.54	
冬キャベツ (海匝)	黒腐病	発病度	0.00	0.25	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.00	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	4.57	0.00	
	さび病	発病度	0.00	0.03	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.40	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	8.80	22.48	9.10	
	ハスモンヨトウ	成幼虫寄生株率(%)	18.40	28.55	12.80	
	シロイチモジョトウ	被害株率(%)	0.00	0.28	0.00	
	ネギコガ	被害株率(%)	29.60	2.37	16.40	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.40	0.38	0.80	
		被害度	5.50	11.08	3.50	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率(%)	0.53	1.12	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	3.73	1.99	0.27	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	25.87	7.71	15.73	
		幼虫寄生株率(%)	1.87	1.57	1.33	
	ハダニ類	成虫寄生株率(%)	3.20	5.79	2.13	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.03	0.43	0.21	
	炭疽病	発病新梢率(%)	0.00	0.14	0.06	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生葉率(%)	0.94	0.92	0.09	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.15	0.17	0.21	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.28	0.15	0.08	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.89	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生果率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率(%)	9.00	1.90	4.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	1.38	0.20	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	1.80	0.94	0.00	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.04	0.00	
		払落虫数	0.00	0.94	2.00	
ピワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	2.50	1.63	5.25	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.25	0.48	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率(%)	0.00	0.48	0.00	
	立枯病	発病株率(%)	0.80	0.40	0.00	
	アザミウマ類	被害株率(%)	0.00	14.83	0.60	
	シロイチモジョトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.40	0.00	
	ヨトウムシ類	被害株率(%)	0.00	3.73	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生株率(%)	2.40	4.91	0.00	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.02	0.20	

トラップ月間誘殺数（9月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.7	0.4	0.0	頭/月
	セジロウンカ	"	0.0	2.4	0.0	
	トビイロウンカ	"	0.3	0.3	0.0	
	ヒメトビウンカ	"	5.7	1.8	1.1	
	ツマグロヨコバイ	"	2,661.3	427.1	197.8	
	フタオビコヤガ	"	3.3	1.3	1.0	
	ニカメイガ	"	14.3	2.2	13.3	
	コブノメイガ	"	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	"	147.3	36.3	28.9	
	クモヘリカメムシ	"	35.0	2.7	11.7	
	ホソハリカメムシ	"	1.0	0.3	0.4	
	シラホシカメムシ類	"	0.0	-	0.0	
	イネカメムシ	"	104.7	5.8	4.3	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	"	7.7	2.3	4.3	
	アカスジカスミカメ	"	60.0	28.6	57.5	
果樹予察灯	ミナミアオカメムシ	"	146.3	12.3	4.3	頭/月
	チャバネアオカメムシ	"	6.0	13.6	22.0	
	クサギカメムシ	"	1.0	5.3	7.0	
性フェロモン	ツヤアオカメムシ	"	4.0	15.1	6.0	頭/日
	ドウガネブイブイ	印旛、香取	1.78	3.08	1.02	
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.02	0.97	0.03	
	コナガ	海匝、安房	0.04	0.51	0.46	
	ハスモンヨトウ	県内全域	26.97	26.75	26.56	
	シロイチモジョトウ	県内全域	11.32	2.62	6.30	
	オオタバコガ	県内全域	4.82	3.64	6.50	
	タバコガ	県内全域	1.31	1.25	1.95	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	3.72	1.76	3.92	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.02	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	3.72	1.77	3.94	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.66	0.41	0.16	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.16	1.38	0.76	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.82	1.80	0.92	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	7.80	5.49	4.69	頭/日
	ツヤアオカメムシ	"	1.11	0.96	2.79	
	クサギカメムシ	"	1.72	0.47	0.50	
	カメムシ類	"	10.64	6.91	7.97	
	マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）	"	0.60	0.40	0.29	

## ○気象予報

10月10日気象庁発表

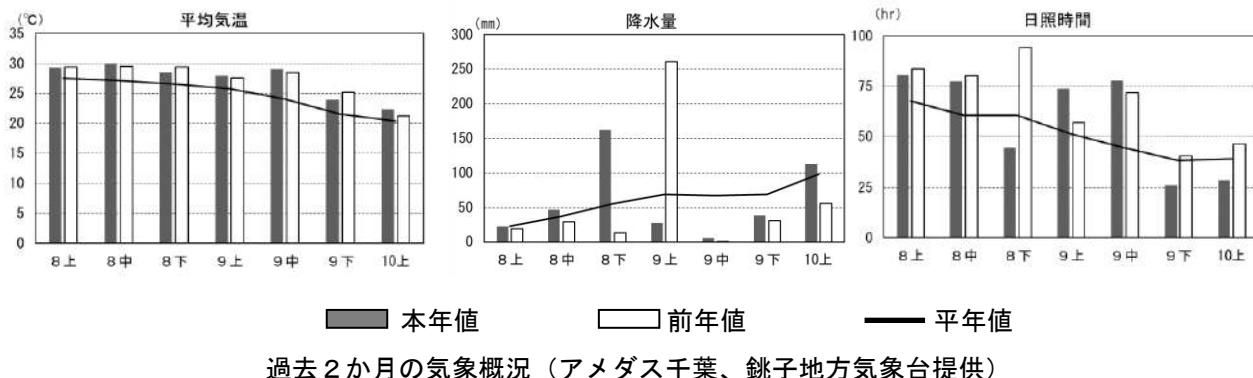
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(10月12日～11月11日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.7	17.5	16.8
降水量(mm)	158.4	205.9	206.4
日照時間(hr)	141.5	143.7	146.0

出典：気象庁ホームページ



過去2か月の気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- 次回の発行予定は11月19日です。
- なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

令和6年11月19日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が10月下旬～11月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (10月下旬～11月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬春キユウリ	うどんこ病	少	発病葉率：少【1.20%/12.09%】（-） 気象予報：日照時間並か少（+）	<a href="#">37</a>
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.02%】 気象予報：日照時間並か少（+）	<a href="#">38</a>
	べと病	やや少	発病葉率：やや少【0.00%/1.30%】（-） 気象予報：日照時間並か少（+）	<a href="#">39</a>
	オンシツコナジラミ	少	成虫寄生株率(オンシツコナジラミ)：少【0.00%/4.78%】（-）	<a href="#">40</a>
	タバココナジラミ	やや多	成虫寄生株率(タバココナジラミ)： やや多【20.80%/5.64%】（+） 気象予報：降水量並	
冬キャベツ	黒腐病	多	発病度：多【11.2/0.4】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並　日照時間並か少（+）	<a href="#">36</a>
	菌核病	やや多	本年4月発病株率：やや多【4.00%/1.78%】（+） 発病株率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（+）降水量並　日照時間並か少（+）	<a href="#">36</a>
秋冬ネギ	さび病	並	発病度：並【0.00/0.14】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">34</a>
	べと病	並	発病株率：並【0.00%/0.16%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">34</a>
	ネギアザミウマ	やや多	成幼虫寄生株率：並【34.80%/34.96%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">34</a>
	ネギハモグリバエ	やや多	被害度：並【3.30/5.68】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">35</a>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (10月下旬～11月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬 レ タ ス	菌核病	並	発病株率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">41</a>
	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">42</a>
イ チ ゴ	うどんこ病	やや少	発病株率：やや少【1.60%/4.62%】（-） 気象予報：日照時間並か少（+）	<a href="#">42</a>
	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：日照時間並か少（+）	<a href="#">43</a>
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生株率：やや少【2.93%/4.40%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">44</a>
	ハダニ類	少	成虫寄生株率：少【2.13%/11.90%】（-） 気象予報：日照時間並か少（-）	<a href="#">45</a>
カ ネ シ ヨ ン	アザミウマ類	やや多	成幼虫寄生株率：並【0.00%/0.76%】 10月黄色粘着トラップ誘殺数：多【12.38頭/6.56頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	-
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.80%/5.50%】 気象予報：日照時間並か少（-）	-
野 菜 ・ 花 き 共 通	コナガ	並	10月フェロモントラップ誘殺数：少【0.29頭/1.06頭】（-） 10株当たり寄生幼虫蛹数（冬キャベツ）：並【0.00頭/0.02頭】 被害株率（施設ストック）：多【4.00%/1.42%】（+） " (露地ストック)：並【3.00%/5.63%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">45</a>
	ハスモン ヨトウ	やや多	10月フェロモントラップ誘殺数：やや多【39.30頭/31.56頭】（+） 被害株率（秋冬ネギ）：並【0.00%/0.28%】 幼虫寄生株率（カーネーション）：並【0.00%/0.08%】 " (夏秋トマト)：並【0.00%/0.20%】 " (イチゴ)：やや多【3.47%/1.20%】（+） " (冬春キュウリ)：並【0.00%/0.00%】 " (冬キャベツ)：並【0.00%/0.00%】 " (冬レタス)：多【0.40%/0.00%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">46</a>
	シロイチモジ ヨトウ	多	10月フェロモントラップ誘殺数：多【7.32頭/1.88頭】（+） 被害株率（秋冬ネギ）：多【16.80%/1.60%】（+） 幼虫寄生株率（カーネーション）：並【0.00%/0.08%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">46</a>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

### (1) 黒腐病（キャベツ）

令和6年度病害虫発生情報第2号「キャベツ黒腐病の発生状況について」も参照する。



### (2) 灰色かび病（野菜・花き共通）

P 4～5 「これから注意を要する病害虫（灰色かび病）」も参照する。

### (3) コナジラミ類（野菜・花き共通）

令和4年度病害虫発生予報第8号P 4 「これから注意を要する病害虫」も参照する。



### (4) ハスマンヨトウ（野菜・花き共通）

本年の気温は平年より高いことから、今後も露地作物への被害が続くことが予想される。また、晚秋となり、屋外より温暖である施設への飛び込みによる被害も懸念される。いずれも、ほ場をよく観察して、発生初期からの防除を心掛ける。

また、令和6年度病害虫発生予報第7号P 4～5 「これから注意を要する病害虫」も参照する。



### (5) シロイチモジヨトウ（野菜・花き共通）

令和6年度病害虫発生予察注意報第4号「シロイチモジヨトウによるネギの食害に注意」も参照する。



## II これから注意を要する病害虫

### 灰色かび病

灰色かび病菌は、トマト、レタス、キュウリ、イチゴ、シクラメン、カーネーションなど、多くの作物に感染する。灰色かび病菌の生育温度は2~31°C、適温は23°C前後である。分生子は多湿条件で発芽する。枯死した花弁や葉先枯れ部から感染する（写真1）場合が多い。好適条件が続くと菌糸を発達させて、二次伝染源となる。

施設栽培の冬春作型では、夜温の上昇に伴って暖房機の稼働時間が減少し、施設内の相対湿度が高くなりやすい3月頃に発病が増加する。

露地レタスのトンネル栽培では夜間の相対湿度が上がりやすいトンネル被覆後に発病が増加する。

11月14日に発表された気象庁の1か月予報によると、関東甲信地方の日照時間は平年並か少ない、降水量はほぼ平年並、気温は高い見込みであることから、曇雨天が続く場合や、夜温が暖房設定温度より高く、暖房機が稼働しない場合等による多湿に注意が必要である。

#### ＜主な発生部位と症状および伝染形態＞

枯れた下葉や葉先、摘葉・摘芽後の傷口、開花後の花弁、雌ずい等から発生する。その後、健全な部位に広がり、感染した場所を中心とする茶色の輪紋状病斑となることがある。葉や枝に落下した花弁から発生し、接触する茎葉に伝染する（写真2）ことも多い。

病患部には、灰色のカビが密生し、軟らかく腐る。茎や葉柄に発生した場合は、病患部より先は萎れて枯死する。トマト果実の表面には、「ゴーストスポット」と呼ばれる直径1~2mmで白色円形の斑点を生じる（写真3）。

露地レタスのトンネル栽培では、老化葉や凍霜害の被害葉があると発病（写真4）が多くなる。

出荷調製中や、出荷先で発病することもある。

伝染源は、被害残さや有機物に腐生的に生存する菌糸である。菌核の形で土壤中にも生存する。



写真1 キュウリ花弁（左）及びトマト葉先（右）から感染した灰色かび病



写真2 病患部（花弁）の接触により伝染したキュウリの灰色かび病



写真3 トマト果実のゴーストスポット



写真4 レタスの灰色かび病

#### <防除対策>

##### 1 耕種的・物理的防除

- (1) 群落内の風通しを良くし多湿を避ける。施設では、暖房機の積極的な稼働や、全面ポリマルチ・換気等によって湿度を下げる。降雨等で地下水位が例年より高いほ場では特に注意する。
- (2) 施設内での送風は、発生前の予防には有効である。しかし、発生後は分生子（カビ）の飛散を助長し、感染をまん延させてしまうので注意する。
- (3) 傷口が早く乾くよう、管理作業は晴天が続く時に行う。摘葉や摘芽は基部で切断する。
- (4) 発病していなくても、しほんだ花弁や枯死した部位は発生源となるため、摘除する。
- (5) 病患部は早めに摘除し、ほ場外に持ち出して土中に埋め込む。
- (6) 訪花昆虫を使用しない栽培では、紫外線除去フィルムを展張すると、分生子の発芽が抑制されるため発生が少なくなる。
- (7) レタスのトンネル栽培では、トンネル内が多湿にならないよう、日中は換気を十分に行う。
- (8) レタスのトンネル栽培では、老化葉や凍霜害の被害葉は早めに除去する。

##### 2 化学的防除

- (1) 古葉や発病部位をできる限り除去し、葉裏や下位葉にも十分かかるよう、丁寧に農薬散布する。
- (2) 多湿にならないよう、散布薬液が速やかに乾く時間までに散布作業を完了させる。
- (3) 耐性菌を生じやすいので、F R A C コードが異なる薬剤をローテーションで選択する。

### III その他情報

#### 果樹チョウ目（シンクイムシ類・ハマキムシ類）の防除対策が必要です

本年は、夏以降の気温が平年より高めに推移していることから、10月のシンクイムシ類・ハマキムシ類の誘殺が多い（図1～4）。10月のフェロモントラップ調査による1日当たりの誘殺数は、ナシヒメシンクイが2.71頭（平年値：0.67頭）、モモシンクイガが0.01頭（平年値：0.001頭）、チャハマキが3.53頭（平年値：1.17頭）、チャノコカクモンハマキが8.23頭（平年値：3.29頭）で、いずれも「多」の発生であった。

10月はハスモンヨトウを含むチョウ目害虫による「ナシ」の葉の食害が目立ったが、すでに終齢幼虫で薬剤の効果が期待できることや、まもなく落葉することから、積極的な「秋防除（殺虫剤散布）」は不要である。しかし、越冬する幼虫・蛹が多く、来春は多発が予想されることから、冬期からそれぞれの害虫の生態に応じた防除をする必要がある。

#### ＜シンクイムシ類の生態等＞

##### 1 ナシヒメシンクイ

老齢幼虫が枝幹の粗皮の割れ目等に繭を作り越冬する。越冬世代の成虫は4月頃に羽化し始め、ウメ等に産卵し、ふ化した幼虫（第1世代）は枝先に食入する。第1世代成虫がナシ果実に産卵し、ふ化した幼虫（第2世代）は、果実内に食入し、果実中心部を食害する。

成虫の生存期間は5～12日で、その間に産卵を行い、年4回発生する。6月は幼虫が揃って発生するため、この時期に確実な防除を行い、収穫時期の発生と被害を防ぐ。

ナシヒメシンクイの前年秋や本年4月の誘殺数は多く、前作の越冬数が多かったと推察された。本年は春先から各産地で果実の食害等が散見されたが、それを上回る発生となることが懸念される。

##### 2 モモシンクイガ

越冬は、老齢幼虫が浅い土中に扁平な球形の冬繭をつくりその中で行う。5月頃、冬繭を脱出した幼虫は成虫となり、果実に産卵し、ふ化幼虫は果実を食害する。成虫は連続的に発生し、産卵が続くため、定期的な薬剤散布が有効である。

本虫は、未発生国・地域の多くが侵入を警戒している。本県ナシの有望な輸出先である台湾においては、台湾側の生果実の輸入検査で本虫が発見された場合、輸出年度ごとに、発見1回目は当該果実が生産された都道府県からの全ての生果実、発見2回目で全都道府県からの全ての生果実の輸出が停止となる。このため、ナシの輸出に取り組む産地では、特に警戒が必要である。

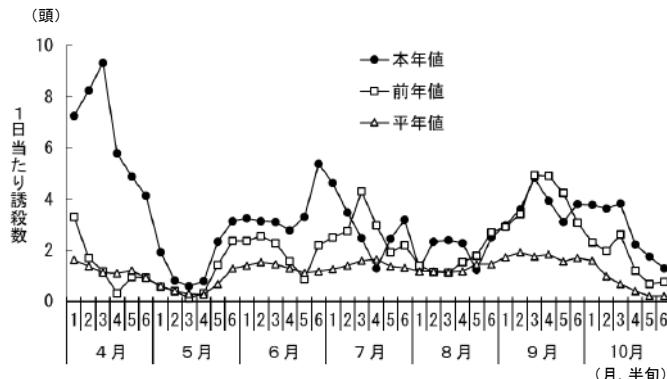


図1 ナシヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺数の推移（県内4地点の平均）

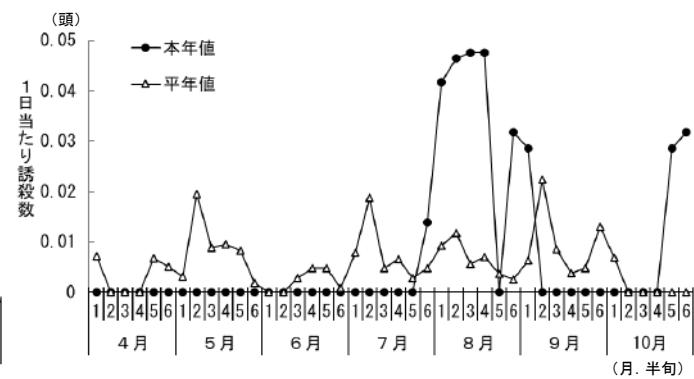


図2 モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺数の推移（県内4地点の平均）

### <ハマキムシ類の生態>

チャハマキは年4～5回、チャノコカクモンハマキは年4回発生する。いずれも、幼虫で越冬し、翌春、4～5月に越冬世代成虫がナシ園に飛来、産卵するため、5月以降の第1世代の幼虫から増加する。

越冬世代と第1世代の発生量には高い相関関係があるとされていることから、来春の発生量が多くなる可能性がある。

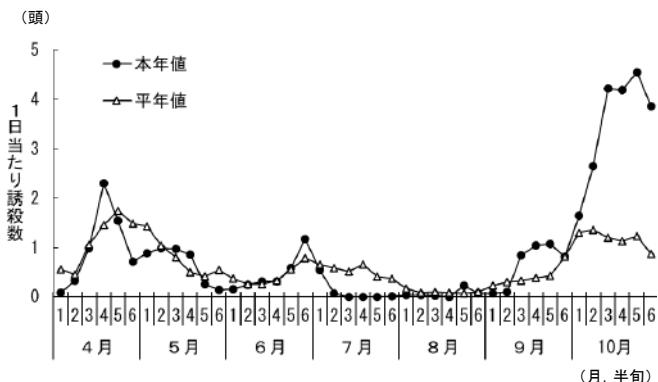


図3 チャハマキのフェロモントラップ誘殺数の推移  
(県内4地点の平均)

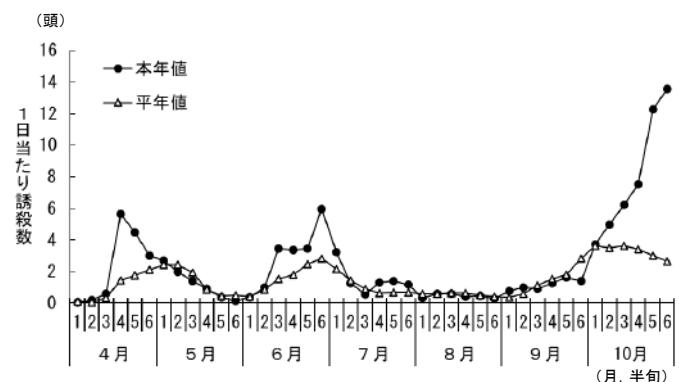


図4 チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ  
誘殺数の推移 (県内4地点の平均)

### <防除対策>

- 1 シンクイムシ類の越冬量を少なくするため、冬期に粗皮を削り、削った粗皮を回収する。  
また、冬期に表土を耕起し、冬繭を死滅させる。
- 2 性フェロモン剤を防除暦に従って設置し、「交信かく乱法」により交尾率を下げ、産卵数を減少させる。なお、産地全体で設置すると、より効果が高くなる。
- 3 断続的に発生するが、幼虫の発生が揃う5～6月に確実な薬剤防除を行い、収穫時期の発生と被害を防ぐ。薬剤散布は、10a当たり300リットルを目安に十分な量を丁寧に散布し、かけむらのないようにする。また、薬剤抵抗性の発達を避けるため、IRACコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。
- 4 シンクイムシ類の被害果は、幼虫が果実から脱出する前に摘除し、速やかに水中に1週間以上浸漬するか、土中深くに埋却する等、適切に処分する。

## ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：10月下旬～11月上旬、花き：10月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
夏秋トマト (山武)	灰色かび病	発病株率(%)	7.00	8.28	0.00	
		発病果率(%)	0.00	0.09	0.00	
		果実発病度	0.00	0.70	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	85.00	65.07	60.00	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	43.00	6.23	5.50	
	アブラムシ類	成虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	5.00	19.40	6.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	29.00	7.26	11.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.20	2.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	1.00	2.50	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	4.58	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	248.61	427.03	0.00	頭/30日
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	4.44	31.85	0.00	頭/30日
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率(%)	1.20	12.09	1.20	
	褐斑病	発病葉率(%)	0.00	0.02	0.00	
	べと病	発病葉率(%)	0.00	1.30	2.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.09	0.00	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	4.78	0.80	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	20.80	5.64	2.40	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
冬キャベツ (海匝)	黒腐病	発病度	11.20	0.40	0.40	
	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.02	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	3.51	0.00	
	さび病	発病度	0.00	0.14	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	18.40	22.61	8.00	
		成幼虫寄生株率(%)	34.80	34.96	12.00	
	ネギアブラムシ	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.76	0.80	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.28	0.00	
	シロイチモジョトウ	被害株率(%)	16.80	1.60	8.40	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.12	0.40	
	ネギハモグリバエ	被害度	3.30	5.68	5.30	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	腐敗病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.40	0.30	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.40	0.00	0.00	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率(%)	1.60	4.62	2.75	
	炭そ病	発病株率(%)	2.93	0.15	0.25	
	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	2.93	4.40	4.25	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	3.47	1.20	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生株率(%)	2.13	11.90	3.00	
ナシ (県内全域)	黒星病(秋型病斑)	発病葉率(%)	3.21	1.63	2.74	
	うどんこ病	発病度	1.18	3.43	2.21	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.00	0.09	0.04	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	5.21	1.76	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率(%)	14.80	6.80	22.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	0.28	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.24	0.00	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.10	0.00	
		払落虫数	0.00	0.28	0.20	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ビワ (安房)	灰斑病 アブラムシ類 カミキリムシ類	発病葉率 (%) 成幼虫寄生葉率 (%) 被害穴数	1.25 0.00 0.00	3.69 0.00 0.50	8.50 0.00 0.00	
カーネーション (安房)	立枯病 萎凋症 アザミウマ類 アザミウマ類 オオタバコガ シロイチモジョトウ ハスモンヨトウ ヨトウムシ類 ハダニ類	発病株率 (%) 発病株率 (%) 被害株率 (%) 黄色粘着トラップ誘殺数 幼虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 被害株率 (%) 成虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 12.38 0.80 0.00 0.00 0.00 0.80	0.76 0.32 14.70 6.56 0.56 0.08 0.08 2.48 5.50	0.00 0.00 7.20 6.39 1.60 0.00 0.00 0.00 0.00	頭/30日
ストック (安房)	菌核病 (施設) 菌核病 (露地) 萎凋病 (施設) 萎凋病 (露地) コナガ (施設) コナガ (施設) コナガ (露地) コナガ (露地) アブラムシ類 (施設) アブラムシ類 (露地)	発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病度 発病度 被害株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 被害株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 0.00 4.00 0.00 3.00 0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 - - 1.42 0.24 5.63 1.13 0.16 2.83	0.00 0.00 - - 0.80 0.80 0.00 0.00 0.00 0.00	

\* 黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を 30 日に換算した値

#### トラップ月間誘殺数 (10 月) \* 種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備 考
			本年値	平年値	前年値	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	1.9	5.0	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	"	0.0	1.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	"	2.9	8.5	1.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.10	0.18	0.05	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.00	0.00	0.00	
	コナガ	海匝、安房	0.29	1.06	0.78	
	ハスモンヨトウ	県内全域	39.30	31.56	30.38	
	シロイチモジョトウ	県内全域	7.32	1.88	4.92	
	オオタバコガ	県内全域	4.40	3.64	7.12	
	タバコガ	県内全域	0.93	0.64	1.04	
	ナシヒメシングイ	東葛飾、印旛	2.71	0.67	1.57	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.01	0.00	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	2.73	0.67	1.57	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	3.53	1.17	1.19	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	8.23	3.29	3.22	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	11.76	4.46	4.41	
	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.70	1.46	0.83	頭/日
	ツヤアオカメムシ	"	1.47	0.61	0.73	
	クサギカメムシ	"	0.50	0.40	0.42	
	カメムシ類	"	3.67	2.46	1.98	
	マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)	"	0.58	0.19	0.17	

## ○気象予報

11月14日気象庁発表

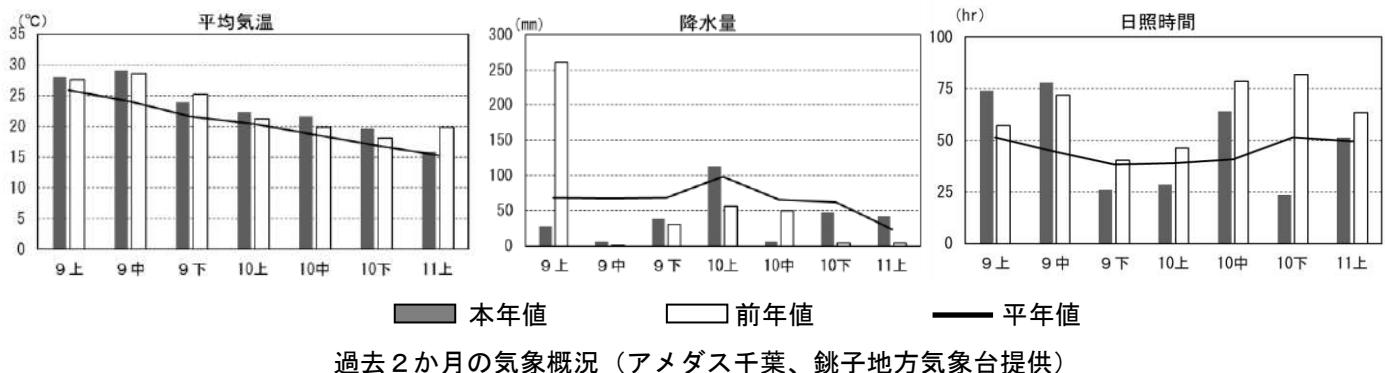
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(11月16日～12月15日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	10.9	11.9	11.2
降水量(mm)	80.7	124.2	125.1
日照時間(hr)	152.4	141.8	148.4

出典：気象庁ホームページ



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- 次回の発行予定は12月17日です。
- なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

令和6年12月17日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が11月下旬～12月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (11月下旬～12月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬春トマト	うどんこ病	並	発病株率：並【0.40%/2.36%】 気象予報：日照時間多（-）	<a href="#">30</a>
	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.12%】 気象予報：日照時間多（-）	<a href="#">31</a>
	黄化葉巻病	やや多	発病株率：やや多【0.40%/0.19%】（+） 成虫寄生株率（タバココナジラミ）： やや多【0.40%/0.16%】（+）	<a href="#">31</a>
	オンシツコナジラミ	並	成虫寄生株率（オンシツコナジラミ）：並【0.00%/0.04%】 成虫寄生株率（タバココナジラミ）： やや多【0.40%/0.16%】（+）	<a href="#">33</a>
	タバココナジラミ	やや多	気象予報：日照時間多（+）	<a href="#">33</a>
冬春キュウリ	うどんこ病	少	発病葉率：少【3.80%/11.70%】（-） 気象予報：日照時間多（-）	<a href="#">37</a>
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.27%】 気象予報：日照時間多（-）	<a href="#">38</a>
	菌核病	並	果実発病度：並【0.00/0.58】 気象予報：日照時間多（-）	-
	べと病	少	発病葉率：少【0.00%/7.51%】（-） 気象予報：日照時間多（-）	<a href="#">39</a>
	オンシツコナジラミ	やや少	成虫寄生株率（オンシツコナジラミ）： やや少【0.00%/1.16%】（-） 成虫寄生株率（タバココナジラミ）： 多【7.20%/0.44%】（+） 11月黄色粘着トラップ誘殺数：並【11.27頭/22.53頭】 気象予報：日照時間多（+）	<a href="#">40</a>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (11月下旬~12月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
キャベツ	菌核病	並	発病株率(冬キャベツ)：並【0.00%/0.80%】 発病株率(春キャベツ)：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温低(−) 降水量少(−)	<a href="#">36</a>
	黒腐病	やや多	発病度(冬キャベツ)：多【13.20/1.81】(+) 発病度(春キャベツ)：多【1.20/0.06】(+) 気象予報：気温低(−) 降水量少(−)	<a href="#">36</a>
秋冬ネギ	さび病	並	発病度：並【0.00/0.38】 気象予報：気温低(−) 降水量少(−)	<a href="#">34</a>
	べと病	並	発病株率：並【0.00%/0.32%】 気象予報：気温低(−) 降水量少(−)	<a href="#">34</a>
	ネギアザミウマ	並	成幼虫寄生株率：並【22.40%/32.63%】 気象予報：気温低(−) 降水量少(+)	<a href="#">34</a>
冬レタス	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.16%】 気象予報：気温低(−) 降水量少(−)	<a href="#">42</a>
	菌核病	並	発病株率：並【0.00%/0.28%】 気象予報：気温低(−) 降水量少(−)	<a href="#">41</a>
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率：並【2.67%/3.33%】 気象予報：日照時間多(−)	<a href="#">42</a>
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生株率：並【2.93%/3.69%】 11月黄色粘着トラップ誘殺数：少【1.45頭/9.69頭】(−) 気象予報：日照時間多(+)	<a href="#">44</a>
	ハダニ類	やや少	成虫寄生株率：少【2.93%/15.82%】(−) 気象予報：日照時間多(+)	<a href="#">45</a>
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【18.40%/9.70%】(+) 気象予報：気温低(−) 降水量少(+)	<a href="#">28</a>
カネーション	アザミウマ類	並	成幼虫寄生株率：並【0.00%/1.52%】 11月黄色粘着トラップ誘殺数：並【2.00頭/4.46頭】 気象予報：日照時間多(+)	−
	ハダニ類	やや少	成虫寄生株率：やや少【0.00%/3.52%】(−) 気象予報：日照時間多(+)	−
ストック	菌核病	並	発病株率(施設ストック)：並【0.00%/0.00%】 " (露地ストック)：並【0.00%/0.00%】 本年2月発病株率(施設ストック)：並【0.00%/0.15%】 " (露地ストック)：並【0.00%/0.16%】 気象予報：気温低(−) 降水量少(−) 日照時間多(−)	−
野菜・花き共通	コナガ	やや少	11月フェロモントラップ誘殺数：並【0.82頭/1.98頭】 10株当たり寄生幼虫蛹数(冬キャベツ)： " (春キャベツ)： 幼虫寄生株率(施設ストック)：並【0.00%/0.58%】 " (露地ストック)： 気象予報：気温低(−) 降水量少(+)	<a href="#">45</a>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

### (1) 黒腐病（キャベツ）

[令和6年度病害虫発生情報第2号「キャベツ黒腐病の発生状況について」も参照する。](#)



### (2) 灰色かび病（野菜・花き共通）

[令和6年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。](#)



### (3) コナジラミ類（野菜・花き共通）

[令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。](#)



## II これから注意を要する病害虫

### ヒヨウタンゾウムシ類

千葉県において農作物に大きな被害を及ぼすヒヨウタンゾウムシは、「サビヒヨウタンゾウムシ」と「トビイロヒヨウタンゾウムシ」の2種（以下ヒヨウタンゾウムシ類）である。この2種の生態や農作物への加害痕は、ほぼ同じであると考えられている。また、形態による2種の判別は、肉眼では困難である。

ヒヨウタンゾウムシ類は広食性で、成虫（写真1・2）は地上部を（写真3）、幼虫（写真4）は地下部を食害し（写真5・6）、農作物に甚大な被害を及ぼすことがある。

ヒヨウタンゾウムシ類によるラッカセイ地上部の被害株率（県内10地点の平均）は、9月上旬は86.00%（平年値68.68%）と、過去11年中2位であった（図1）。8月上旬は同1位、7月上旬は同3位であり、継続して多かった（図2）ことから、来春の被害多発が懸念される。

ヒヨウタンゾウムシ類による主な経済的な被害部位は地下部であることから、被害を抑制するために耕種的な防除を心掛ける。



写真1 サビヒヨウタンゾウムシの成虫



写真2 トビイロヒヨウタンゾウムシの成虫



写真3 食害されたラッカセイの葉



写真4 幼虫（左）と蛹（右）



写真5 食害されたニンジンの根



写真6 食害されたラッカセイの莢

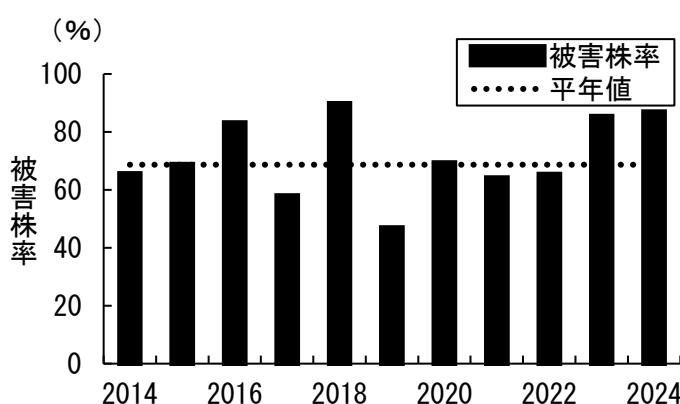


図1 ヒヨウタンゾウムシ類による9月上旬におけるラッカセイ地上部被害株率  
(県内10地点の平均)

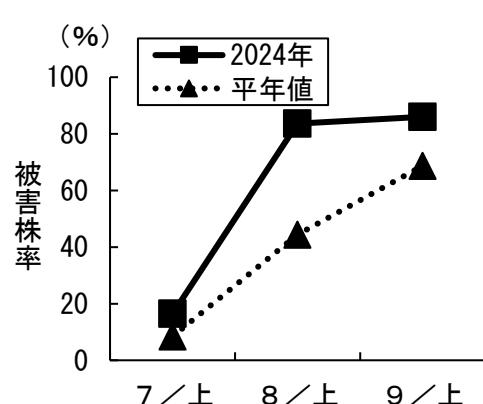


図2 ヒヨウタンゾウムシ類によるラッカセイ地上部被害株率の推移  
(県内10地点の平均)

### ＜被害のようす＞

地下部の食害により、ニンジン・ラッカセイ・ゴボウ・ネギ等で商品価値が著しく低下する。

地上部では、作物の播種・定植後に子葉や若い本葉が食害されると、生育遅延や枯死の原因となる。葉菜類では、本葉の周囲が食害されることによって商品価値が著しく低下する。

### ＜生態＞

幼虫でも成虫でも越冬する。成虫での越冬は、前年から地上で活動した後で主に雑草や冬作物の株元・枯草の下などの地表面で越冬するものと、羽化したまま地中にとどまって越冬するものの2形態がある。

成虫は、灰褐色～黒褐色で、頭部が小さく胸部と腹部が大きいヒョウタン型をしており、体長は6～9mmである。後翅が退化しており飛ぶことはできないが、歩行能力は高い。成虫で越冬した場合は5月上旬に産卵を開始する。

卵は、寄主植物の毛茸や株元の地表面などに産み付けられる。

幼虫は乳白色～黄白色で脚が無く、植物の地下部をエサとして10mm程度まで成長する。その後、土中で蛹化・羽化し、地上に出現する。本虫が分布する深さは、ラッカセイの場合は30cm・ゴボウの場合は100cmに及ぶため、土中に分布してしまった本虫の防除は困難である。

### ＜防除対策＞

1 被害が発生したほ場で秋まで作物が作付けられていた場合には、土中で成虫及び幼虫が越冬している可能性が高い。

(1) 広食性であることから、緑肥や雑草が生育しているほ場でも幼虫は生存できることに留意する（ただし、ソルガムやスダングラス等の一部の緑肥では生育できない）。

(2) 秋冬期にほ場に残ってしまっている作物の残根や雑草が成虫及び幼虫の餌になる可能性があるので、収穫残さの除去が重要である。また、作付けがない時期は、耕うん等で野良生えや雑草を速やかに除去する。

(3) 6月まで裸地状態で管理すると、越冬幼虫が餓死するため被害を回避できる。

2 6月以降に作物を植え付けると、周囲に分散した成虫が再度ほ場に侵入する可能性がある。

(1) 成虫を捕殺する。

(2) 成虫は、障壁を設置しても、乗り越えてほ場へ侵入してしまう。ただし、垂直面の上端に40°の折り返し（ネズミ返し）を設けると、阻止効果が高い。

(3) 表を参考に薬剤で防除し、次世代の幼虫の発生を抑制する。

表 ヒョウタンゾウムシに使用できる農薬（抜粋・令和6年12月11日現在）

I R A C コード	薬剤名	適用害虫名	適用作物 ※			
			ニンジン	ラッカセイ	ゴボウ	ネギ
1B	トクチオン細粒剤F	ヒョウタンゾウムシ類	○	○	○	
4A	スタークル顆粒水溶剤/ アルバリン顆粒水溶剤	トビイロヒョウタンゾウムシ	○			○
13	コテツフロアブル	ヒョウタンゾウムシ類	○			○
22B	アクセルフロアブル	ヒョウタンゾウムシ類	○		○	

※ 適用作物によって使用基準は異なる。農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り、適正に使用する。

## ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (野菜: 12月上旬、果樹・花き: 11月下旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (長生、海匝)	うどんこ病 灰色かび病 " " すすかび病 黄化葉巻病 アブラムシ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ ハモグリバエ類 アザミウマ類	発病株率 (%) 発病株率 (%) 果実発病度 発病株率 (%) 発病株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 成虫寄生株率 (%) 成虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%)	0.40 0.00 0.00 0.00 0.40 0.00 0.00 0.40 0.40 0.00	2.36 0.12 0.04 0.18 0.19 0.04 0.04 0.16 0.56 0.12	8.00 0.00 0.00 0.00 0.90 0.00 0.00 0.80 1.20 0.80	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 " " ベと病 ワタヘリクロノメイガ オンシツコナジラミ タバココナジラミ コナジラミ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ	発病葉率 (%) 発病葉率 (%) 果実発病度 果実発病度 発病果率 (%) 発病葉率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 成虫寄生株率 (%) 成虫寄生株率 (%) 黄色粘着トラップ誘殺数 成幼虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%)	3.80 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 7.20 11.27 0.00	11.70 0.27 0.58 0.18 0.06 7.51 0.00 1.16 0.44 22.53 0.18	3.80 0.20 0.00 0.00 0.00 16.60 0.00 0.00 0.80 8.73 0.00	頭/30日
冬キャベツ (海匝)	菌核病 黒腐病 アブラムシ類 コナガ ハスモンヨトウ タマナギンウワバ	発病株率 (%) 発病度 成幼虫寄生株率 (%) 10株当たり寄生幼虫蛹数 幼虫寄生株率 (%) 10株当たり寄生幼虫数	0.00 13.20 1.60 0.00 0.00 0.00	0.80 1.81 0.48 0.23 0.00 0.07	0.00 0.40 3.20 0.08 0.00 0.16	
春キャベツ (海匝)	菌核病 黒腐病 アブラムシ類 コナガ ハスモンヨトウ	発病株率 (%) 発病度 成幼虫寄生株率 (%) 10株当たり寄生幼虫蛹数 幼虫寄生株率 (%)	0.00 1.20 0.80 0.00 0.00	0.00 0.06 1.94 0.08 0.00	0.00 0.00 0.80 0.08 0.00	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病 さび病 ベと病 ネギアザミウマ " " ネギアブラムシ ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ ネギコガ ネギハモグリバエ	発病度 発病度 発病株率 (%) 被害度 成幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 被害株率 (%) 被害株率 (%) 被害株率 (%) 被害度	0.00 0.00 0.00 10.90 22.40 0.00 0.00 9.20 0.00 0.10	3.38 0.38 0.32 22.26 32.63 0.52 0.16 0.69 0.17 1.60	0.00 0.00 0.00 14.13 36.50 1.50 0.00 4.50 0.00 1.00	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病 菌核病 モザイク病 斑点細菌病 ネキリムシ類 アブラムシ類 ハスモンヨトウ	発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 被害株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.40	0.16 0.28 0.00 0.00 0.00 0.28 0.00	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.80 0.00	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病 炭そ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハスモンヨトウ ハダニ類	発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 成虫寄生株率 (%)	2.67 0.00 0.00 2.93 1.07 2.93	3.33 0.02 0.00 3.69 0.64 15.82	1.75 0.00 0.00 3.50 0.00 6.50	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ クワゴマダラヒトリ ハマキムシ類	成幼虫寄生葉率 (%) 成虫寄生葉率 (%) 被害果率 (%) 被害葉率 (%)	0.00 18.40 0.00 0.00	0.06 9.70 0.00 0.00	0.00 43.40 0.00 0.00	
カーネーション (安房)	萎凋症 立枯病 アザミウマ類 " "アブラムシ類 " "ハダニ類 シロイチモジョトウ ヨトウムシ類	発病株率 (%) 発病株率 (%) 被害株率 (%) 黄色粘着トラップ誘殺数 成幼虫寄生株率 (%) 黄色粘着トラップ誘殺数 成虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 2.00 0.00 1.40 0.00 0.00	0.48 0.32 14.60 4.46 0.08 34.19 3.52 0.00	0.00 0.00 12.00 9.10 0.00 25.55 0.00 0.00	頭/30日 頭/30日
ストック (安房)	菌核病 (施設) 菌核病 (露地) 萎凋病 (施設) 萎凋病 (露地) コナガ (施設) " "コナガ (露地) " "アブラムシ類 (施設) アブラムシ類 (露地)	発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病度 発病度 被害株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 被害株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 0.00 1.60 0.00 0.00 0.00 3.20	0.00 0.00 - - 3.46 0.58 11.56 3.75 0.00 4.42	0.00 0.00 - - 2.40 0.80 15.20 4.80 0.00 0.00	

\* 黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を 30 日に換算した値

#### トラップ月間誘殺数 (11 月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備 考
			本年値	平年値	前年値	
	コナガ	海匝、安房	0.82	1.98	0.47	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	42.55	22.91	37.51	
	シロイチモジョトウ	県内全域	1.86	0.67	2.22	
	オオタバコガ	県内全域	2.32	1.68	3.75	
	タバコガ	県内全域	0.15	0.11	0.16	

## ○気象予報

12月12日気象庁発表

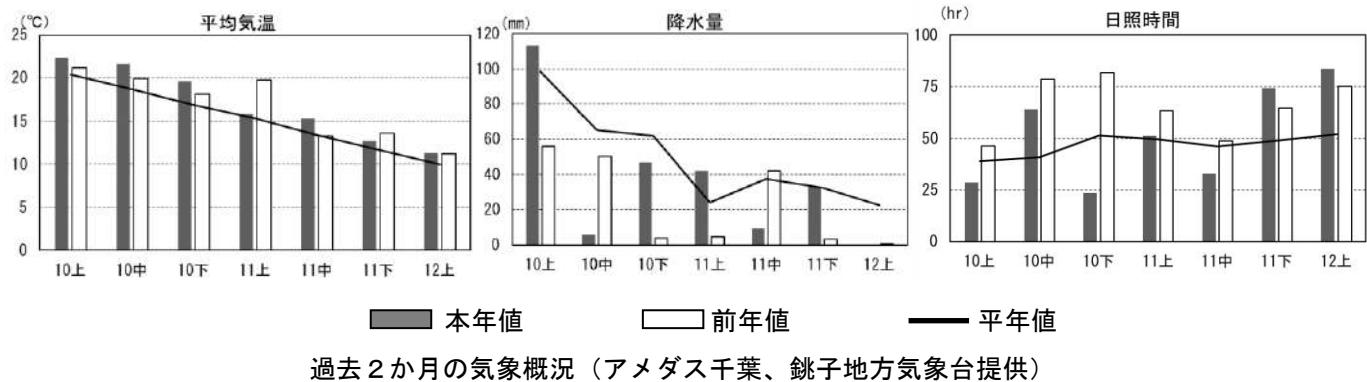
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	50	40	10
降水量	50	30	20
日照時間	20	30	50

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(12月14日～1月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	7.2	7.7	7.5
降水量(mm)	50.5	80.7	80.4
日照時間(hr)	187.9	176.7	174.8

出典：気象庁ホームページ



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- 次回の発行予定は1月16日です。  
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

令和7年1月16日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が12月下旬～1月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬春トマト	うどんこ病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/1.64%】（-） 気象予報：日照時間並	<a href="#">30</a>
	オンシツコナジラミ	並	成虫寄生株率(オンシツコナジラミ)：並【0.00%/0.13%】 成虫寄生株率(タバココナジラミ)：並【0.00%/0.08%】 12月黄色粘着トラップ誘殺数：並【0.09頭/0.35頭】	<a href="#">33</a>
	タバココナジラミ	並	気象予報：日照時間並	<a href="#">33</a>
冬春キュウリ	うどんこ病	やや少	発病葉率：やや少【0.60%/9.07%】（-） 気象予報：日照時間並	<a href="#">37</a>
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：日照時間並	<a href="#">38</a>
	菌核病	並	果実発病度：並【0.00/0.18】 気象予報：日照時間並	-
	べと病	やや少	発病葉率：少【0.80%/13.25%】（-） 気象予報：日照時間並	<a href="#">39</a>
キャベツ	菌核病	並	発病株率(冬キャベツ)：並【0.00%/0.86%】 発病株率(春キャベツ)：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">36</a>
冬レタス	菌核病	並	発病株率：やや少【0.00%/1.31%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並	<a href="#">41</a>
	腐敗病	並	発病株率：並【0.00%/0.22%】 気象予報：気温高（-）降水量並	-

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率：並【2.40%/3.67%】 気象予報：日照時間並	<u>42</u>
	アザミウマ類	並	成幼虫寄生株率：並【0.27%/0.46%】 気象予報：日照時間並	<u>44</u>
	ハダニ類	やや少	成虫寄生株率：やや少【7.20%/19.84%】（-） 気象予報：日照時間並	<u>45</u>
施設野菜共通	灰色かび病	並	発病株率（冬春トマト）：並【0.00%/0.08%】 "（イチゴ）：並【0.00%/0.05%】 発病果率（冬春キュウリ）：並【0.00%/0.10%】 気象予報：日照時間並	-
カーネーション	立枯病	並	発病株率：並【0.00%/0.56%】 気象予報：日照時間並	-
	アザミウマ類	やや少	成幼虫寄生株率：並【0.00%/0.16%】 12月黄色粘着トラップ誘殺数：少【0.00頭/1.97頭】（-） 気象予報：日照時間並	-
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.00%/1.30%】 気象予報：日照時間並	-
ストック	菌核病	並	発病株率（施設ストック）：並【0.00%/0.64%】 "（露地ストック）：並【0.00%/0.32%】 気象予報：気温高（+）降水量並　日照時間並	-
野菜・花き共通	コナガ	並	12月フェロモントラップ誘殺数：やや少【0.28頭/0.87頭】（-） 10株当たり寄生幼虫蛹数（冬キャベツ）： "（春キャベツ）：やや少【0.00頭/0.24頭】（-） 幼虫寄生株率（施設ストック）： "（露地ストック）： 気象予報：気温高（+）降水量並	<u>45</u>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) コナジラミ類（冬春トマト）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」](#) 及び [令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」](#) も参照する。



- (2) 灰色かび病（施設野菜共通）

[令和6年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」](#) も参照する。



## II これから注意を要する病害虫

### ナシ 黒星病

ナシ黒星病は、りん片、新梢、葉、葉柄、果実に黒いすすが付いたような病斑を生じる病害である。感染すると落葉や裂果・落果を引き起こし、収量が減少する。罹病した落葉や腋花芽が伝染源となり、3月以降の高温多湿、特に15~25°Cで伝染しやすくなる。

令和6年は、5月の発病葉率、発病果率はともに平年並の発生であった（図1・2）。6月の発病果率は1.44%（平年値：0.93%）で平年よりやや多い発生であった（図2）。その後は、発病葉率、発病果率ともにおおむね平年並～やや少ない傾向で推移した（図1・2）。

10月に実施したナシ黒星病の秋型病斑調査では、5~6月に発病があった圃場を中心に、病斑が確認された。

また、12月24日に発表された気象庁の3か月予報（関東甲信地方）では、3月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並の見込みとなっている。このため、3月には気温の上昇と降雨により、感染に好適な条件となり、春から黒星病に感染するリスクが高いと考えられる。

なお、令和6年に黒星病が確認された圃場では、落葉に病原菌が残っている可能性があるため、落葉の除去など、冬季にも対策は必要である。そして、春からはこまめな観察と適切な防除を行い、病気の感染及び拡大を防ぐことが重要である。

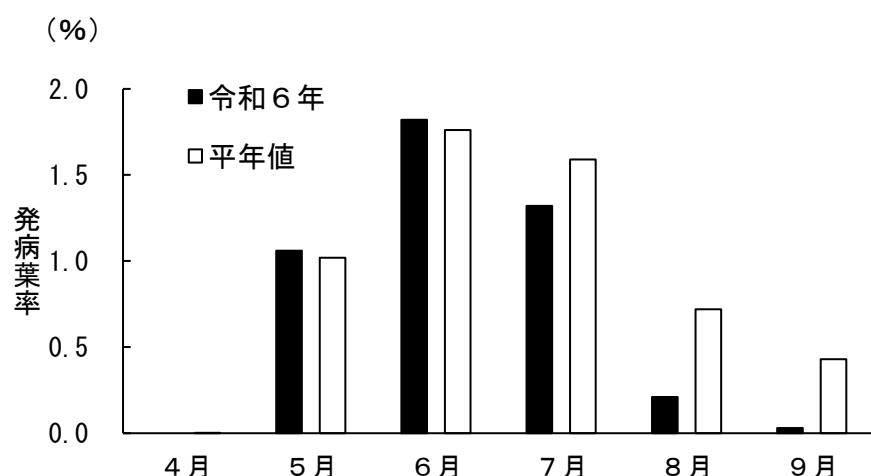


図1 ナシ黒星病の発病葉率（県内34地点の平均）

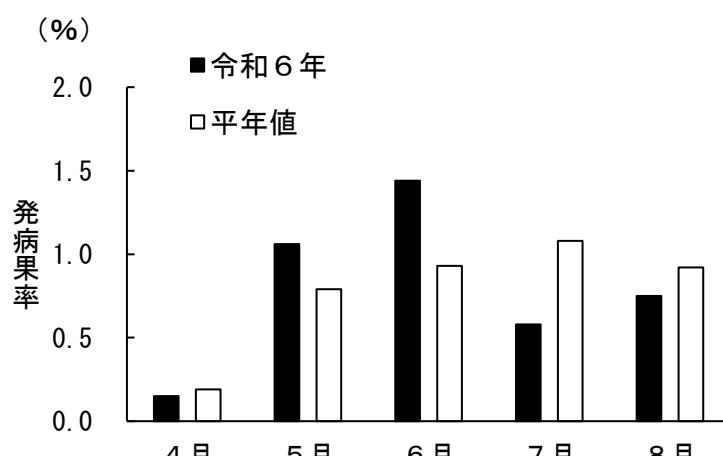


図2 ナシ黒星病の発病果率（県内34地点の平均）

＜防除対策＞

1 耕種的防除

- (1) 伝染源となる落葉は、集めて園外に埋却するか、粉碎、すき込みなど適切に処分する。
- (2) 3月下旬～4月上旬では、発病した部位を適宜除去する。この時期の発病した芽基部の除去は黒星病防除に極めて重要である。

2 化学的防除

以下の表を参考に、適期に薬剤防除する。

表 催芽期～摘果期までの防除時期及び薬剤（令和7年1月1日現在）

時期	FRACコード*	薬剤名	希釈倍率	注意事項
催芽期～発芽期 3月中旬～3月下旬	M 4	オーソサイド水和剤80	600～1,000倍	前年に黒星病が多発した園では、剪定後の長果枝先端部が催芽～発芽する時期に散布する。ただし、展開葉に薬害の恐れがあるので、散布が遅れないように注意する。 また、ハーベストオイルとの近接散布は避ける。
りん片脱落期 3月下旬～4月上旬	M 3 M 9	チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル 又はデランフロアブル	500倍 1,000倍	デランフロアブルは皮膚のかぶれが問題となる場合があるため注意する。
りん片脱落終了後～開花直前 4月上旬	3 M 3	マネージDF チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル	6,000～8,000倍 500倍	チオノックフロアブル、トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌の発生リスクが少ない薬剤とされている。
受粉終了後 4月中旬～4月下旬	3 M 3	スコア顆粒水和剤 チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル	2,000～4,000倍 500倍	
5月上旬	M 3 11	チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤	500倍 3,000～4,000倍	ファンタジスタ顆粒水和剤は黒星病、心腐れ症(胴枯病菌による)対策のため使用する
5月中旬	M 7	ベルクートフロアブル	1,500倍	黒星病の多発が心配される場合には、ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍液(FRACコード：9)とベルクートフロアブル1,500倍液を追加散布する。
摘果期 5月下旬	M 1	有機銅フロアブル	1,000倍	有機銅フロアブル剤には、「キノンドー」、「ドキリン」がある。

※ FRACコードとは、殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### III その他情報

#### かんきつ ミカンハダニの冬期防除が必要です

ミカンハダニは、成幼虫が、かんきつ類の葉や果実、緑枝を吸汁加害する。加害が続くと、早期落葉により樹勢が低下するほか、果実の着色が不良となり、商品価値が低下する。本種は冬も休眠せず、かんきつ類では1年を通じて増殖する。

2024年は、秋（9月下旬～11月下旬）の成虫寄生葉率が、平年値と比べて高く推移した（図1）ほか、11月下旬の成虫寄生葉率は、過去11年中3位であり、2023年から連續して多発している（図2）。

また、1月9日に発表された気象庁の1か月予報（関東甲信地方）では、平均気温は高い見込みであることから、本種が増殖可能な環境が続くと考えられる。

以上のことから、昨秋寄生の多かった園地では、春以降の寄生密度が高くなる可能性があるため、冬期防除を行い、寄生密度の低下に努める。

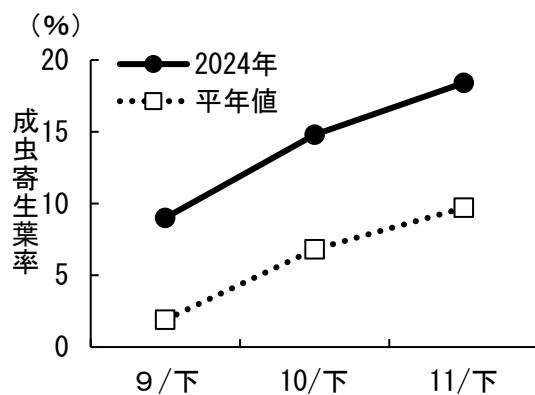


図1 ミカンハダニの成虫寄生葉率の推移（県内5地点の平均）

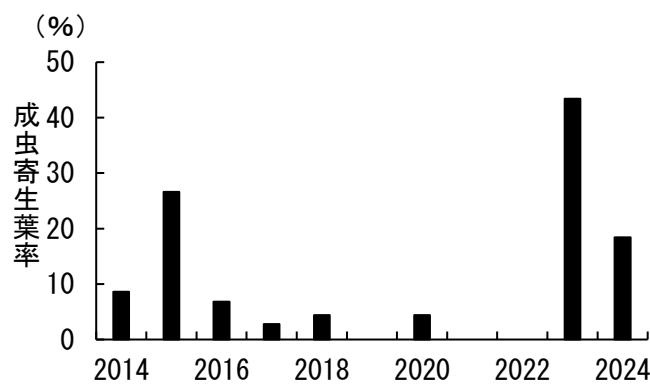


図2 11月下旬におけるミカンハダニの成虫寄生葉率（県内5地点の平均）

#### <防除対策>

- 1 温州ミカンでは12～3月、中・晩生かんきつ類では収穫後（2月下旬～3月上旬）に、マシン油乳剤（97%）60倍液を散布して、初期密度を抑制する。ミカンハダニは葉裏にも多く寄生しているため、マシン油乳剤が葉裏までかかるように丁寧に散布する。
- 2 温州ミカンについて、寒害を受けやすい園地や着花量の少ない園地では、マシン油乳剤（97%）の冬期の散布を避け、4～5月に100～150倍液を散布する。
- 3 樹勢が低下している樹については、落葉を助長する恐れがあるため、マシン油乳剤の散布を控える。
- 4 マシン油乳剤の散布は、散布直後の降雨によって薬剤の効果が低下するため、晴天が続く時を見計らって実施する。
- 5 薬剤の散布むらが発生する原因となるため、剪定により不要な枝葉を除去して過繁茂を抑制する。

○主要病害虫の発生状況 巡回調査結果 (野菜: 1月上旬、果樹・花き: 12月下旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (長生、海匝)	うどんこ病 疫病 灰色かび病 " " すすかび病 オンシツコナジラミ タバココナジラミ コナジラミ類 ハモグリバエ類	発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 果実発病度 発病株率 (%) 成虫寄生株率 (%) 成虫寄生株率 (%) 黄色粘着トラップ誘殺数 幼虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 0.00 3.20 0.00 0.00 0.09 0.00	1.64 0.04 0.08 0.00 0.18 0.13 0.08 0.35 0.60	1.20 0.00 0.00 0.00 1.60 0.00 0.80 0.30 1.60	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 " " べと病 オンシツコナジラミ タバココナジラミ アザミウマ類	発病葉率 (%) 発病葉率 (%) 果実発病度 果実発病度 発病果率 (%) 発病葉率 (%) 寄生株率 (%) 寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%)	0.60 0.00 0.00 0.00 0.00 0.80 0.00 14.40 0.80	9.07 0.00 0.18 0.31 0.10 13.25 1.47 1.18 0.44	1.00 0.00 0.00 0.00 0.00 19.20 0.80 0.80 4.00	
冬キャベツ (海匝)	菌核病 黒腐病 アブラムシ類 コナガ	発病株率 (%) 発病度 成幼虫寄生株率 (%) 10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00 13.00 0.00 0.00	0.86 2.14 0.80 0.24	1.00 0.75 0.00 0.00	
春キャベツ (海匝)	菌核病 黒腐病 ア布拉ムシ類 コナガ	発病株率 (%) 発病度 成幼虫寄生株率 (%) 10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00 1.80 12.80 0.00	0.00 0.07 0.70 0.13	0.00 0.00 0.00 0.00	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病 菌核病 腐敗病 べと病 アブラムシ類	発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	0.27 1.31 0.22 0.96 0.00	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病 " " 灰色かび病 " " アブラムシ類 ハスモントウ アザミウマ類 ハダニ類	発病株率 (%) 発病果率 (%) 発病株率 (%) 発病果率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 成虫寄生株率 (%)	2.40 0.04 0.00 0.00 5.07 0.27 0.27 7.20	3.67 0.23 0.05 0.00 2.99 0.02 0.46 19.84	2.00 0.03 0.00 0.00 5.25 0.00 0.25 8.75	
カーネーション (安房)	萎凋症 立枯病 アブラムシ類 " " アザミウマ類 " " ハダニ類	発病株率 (%) 発病株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 黄色粘着トラップ誘殺数 被害株率 (%) 黄色粘着トラップ誘殺数 成虫寄生株率 (%)	1.60 0.00 0.00 2.64 0.00 0.00 0.00	0.32 0.56 0.08 10.19 12.76 1.97 1.30	0.00 0.00 0.00 5.20 12.00 1.80 0.00	頭/30日 頭/30日
ストック (安房)	菌核病 (施設) 菌核病 (露地) 萎凋病 (施設) 萎凋病 (露地) コナガ (施設) " " コナガ (露地) " " アブラムシ類 (施設) アブラムシ類 (露地)	発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 発病株率 (%) 被害株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 被害株率 (%) 幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%) 成幼虫寄生株率 (%)	0.00 0.00 0.00 3.20 1.60 0.00 0.80 0.00 0.00 0.80	0.64 0.32 0.00 0.16 4.64 1.60 17.74 3.48 0.00 2.82	0.00 0.00 0.00 0.00 4.80 1.60 4.00 0.80 0.00 0.80	

\* 黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を30日に換算した値

トラップ月間誘殺数 (12月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匝、安房	0.28	0.87	0.08	頭/日

## ○気象予報

1月9日気象庁発表

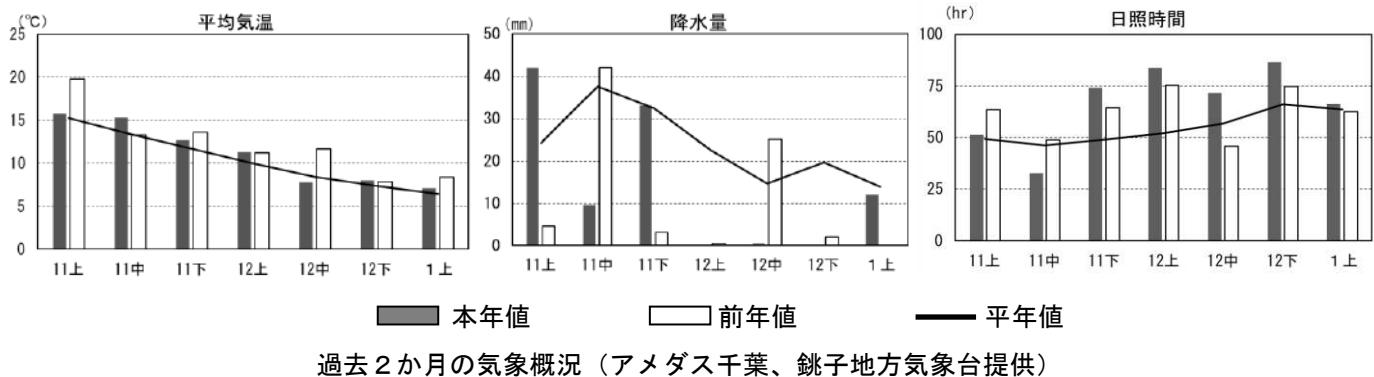
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(1月11日～2月10日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	6.0	6.5	6.3
降水量(mm)	70.9	106.3	81.6
日照時間(hr)	188.5	178.2	173.0

出典：気象庁ホームページ



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- 次回の発行予定は3月18日です。  
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

令和7年3月18日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。また、【】内の数値は左側が2月下旬～3月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)


作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (2月下旬～3月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	イネミズゾウムシ	やや少	2月畦畔0.25 m <sup>2</sup> 土壤中成虫数 ：やや少【0.09頭/1.08頭】（-）	<a href="#">19</a>
	ヒメトビウンカ	やや少	2月畦畔3 m <sup>2</sup> 吸い取り成幼虫数 ：やや少【0.21頭/2.21頭】（-）	<a href="#">21</a>
	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	並	冬季気温（12月～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値）：並	<a href="#">19</a>
冬春トマト	うどんこ病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/1.68%】（-） 気象予報：日照時間並	<a href="#">30</a>
	オンシツコナジラミ	やや多	成虫寄生株率（オンシツコナジラミ）：並【0.00%/0.16%】 成虫寄生株率（タバココナジラミ）：並【0.00%/0.16%】	<a href="#">33</a>
	タバココナジラミ	やや多	2月黄色粘着トラップ誘殺数：やや多【1.32頭/0.64頭】（+） 気象予報：気温並・日照時間並	<a href="#">33</a>
春キャベツ	菌核病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/1.60%】（-） 気象予報：気温並・降水量並	<a href="#">36</a>
	アブラムシ類	多	成幼虫寄生株率：多【42.4%/1.28%】（+） 気象予報：気温並・降水量並	<a href="#">37</a>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (2月下旬～3月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率：並【1.60%/1.41%】 気象予報：日照時間並	<a href="#">42</a>
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生株率：並【4.80%/3.13%】 2月黄色粘着トラップ誘殺数：やや少【0.77頭/4.96頭】（-） 気象予報：気温並・日照時間並	<a href="#">44</a>
	アザミウマ類	やや多	成幼虫寄生株率：やや多【4.00%/1.11%】（+） 2月黄色粘着トラップ誘殺数：並【3.01頭/5.92頭】 気象予報：気温並・日照時間並	<a href="#">44</a>
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【17.60%/28.72%】 気象予報：気温並・日照時間並	<a href="#">45</a>
施設野菜共通	灰色かび病	やや少	発病株率（冬春トマト）：やや少【0.00%/3.12%】（-） " (イチゴ) : やや少【0.00%/2.58%】（-） 気象予報：気温並・降水量並・日照時間並	-
ナシ	黒星病	並	罹病芽率：少【0.08%/1.27%】（-） 秋型病斑発病葉率：多【3.21%/1.63%】（+） 気象予報：降水量並	<a href="#">24</a>
ビワ	果樹カメムシ類	並	チャバネアオカメムシ早期発生予測モデルによる発生量： 中程度	<a href="#">28</a>
カネーション	アザミウマ類	少	被害株率：少【0.00%/9.06%】（-） 2月黄色粘着トラップ誘殺数：少【0.00頭/2.34頭】（-） 気象予報：気温並・日照時間並	-
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.00%/0.64%】 気象予報：気温並・日照時間並	-
野菜・花木共通	コナガ	やや多	2月フェロモントラップ誘殺数：多【0.29頭/0.16頭】（+） 10株当たり寄生幼虫蛹数（春キャベツ）： やや少【0.00頭/0.19頭】（-） 被害株率（施設ストック）：やや多【4.00%/2.34%】（+） 被害株率（露地ストック）：やや少【1.60%/12.59%】（-） 気象予報：気温並・降水量並	<a href="#">45</a>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

(1) ヒメトビウンカ (イネ)

令和6年度病害虫発生予報第11号P4「その他情報」も参照する。



(2) スクミリンゴガイ (イネ)

令和6年度病害虫発生予報第6号P3「これから注意を要する病害虫」も参照する。



(3) コナジラミ類 (冬春トマト)

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照する。



(4) 灰色かび病 (施設野菜共通)

令和6年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。



(5) 黒星病 (ナシ)

令和6年度病害虫発生予報第10号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。



(6) 果樹カメムシ類 (ビワ)

令和6年度病害虫発生予報第6号P5「Ⅲその他の情報」も参照する。



## II その他の情報

### イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率調査の結果

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、発病すると治療することはできない。本病は生育初期に感染すると、葉身が脱色したように淡黄緑色に変色し（写真1）、こより状に巻いて垂れ下がる「ゆうれい症状」を呈し（写真2）、茎数が減少する。一方、生育中期に感染すると、穂が「出すぐみ」症状を示して白穂を生じ（写真3）、穂数が減少する。一般に、生育初期に感染すると減収被害が大きくなる。

本ウイルスは経卵伝染し、次世代もウイルスを獲得するため、ヒメトビウンカの越冬世代幼虫の保毒虫率が高いと、次作の発生が増加する傾向がある。

そこで、常発地の10地点について、昨年11月の越冬世代幼虫の保毒虫率と本年2月中下旬のイネ科雑草地における越冬虫数を調査したところ、保毒虫率が5%※1を上回る地点は確認されず、3m<sup>2</sup>あたりの捕獲虫数は香取市森戸、東庄町笹川を除き0頭であった（表）。

本県では、県北部を中心に、本病が毎年発生しているが、大きな被害は生じていない。しかし、発生が懸念される地域では、次作もほ場をよく観察し、発病株が多い場合は、ひこばえ（2番穂）の早期すきこみ等、収穫後の耕種的防除を行い、越冬虫数及び保毒虫率を下げる対策を実施する。

※1 他県では保毒虫率5%以上、または10%以上を要防除水準としている。



写真1 葉の変色



写真2 ゆうれい症状



写真3 穂の出すぐみ

表 イネ縞葉枯病常発地における昨年11月のヒメトビウンカ越冬世代幼虫の保毒虫率及び本年2月中下旬のイネ科雑草地における3m<sup>2</sup>あたりの捕獲虫数

地域	保毒虫率（%）	イネ科雑草地における捕獲虫数（頭/3m <sup>2</sup> ）		
		本年値	平年値	順位
野田市船形	4.35	0	0.63	4-8位/8年
柏市新利根	0.00	0	0.50	3-8位/8年
流山市前ヶ崎	3.26	0	3.43	2-7位/7年
我孫子市下ヶ戸	0.00	1	1.25	3位/8年
我孫子市浅間前	0.00	0	0.13	2-8位/8年
印西市酒直ト杭	0.00	0	0.38	4-8位/8年
神崎町小松	3.26	0	2.38	6-8位/8年
香取市森戸	1.09	9	4.86	2位/7年
東庄町笹川	0.00	0	1.13	2-8位/8年
横芝光町新井	1.09	0	1.63	3-8位/8年

## ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稻: 2月中旬、野菜: 3月上旬、果樹: 2月、花き: 2月下旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	イネミズゾウムシ	畦畔0.25m <sup>2</sup> 越冬成虫数	0.09	1.08	0.01	
	イネゾウムシ	畦畔0.25m <sup>2</sup> 越冬成虫数	0.10	0.18	0.12	
	イネクロカムシ	畦畔0.25m <sup>2</sup> 越冬成虫数	0.00	0.06	0.01	
	ヒメトビウンカ	畦畔3m <sup>2</sup> 吸い取り成幼虫数	0.21	2.21	4.74	
	ツマグロヨコバイ	畦畔3m <sup>2</sup> 吸い取り成幼虫数	0.03	1.54	2.23	
冬春トマト (長生、海匝)	萎凋症	萎凋株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	0.00	1.68	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	3.12	0.80	
	"	果実発病度	0.00	0.21	0.00	
	すすかび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	モザイク病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率 (%)	0.20	0.13	0.10	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	1.20	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	1.32	0.64	2.46	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
春キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	1.60	0.00	
	黒腐病	発病度	0.20	0.12	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	42.40	1.28	3.20	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.19	0.00	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	1.60	1.41	0.75	
	"	発病果率 (%)	0.05	0.12	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	2.58	0.00	
	"	発病果率 (%)	0.02	0.32	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.80	3.13	6.75	
	"	黄色粘着トラップ誘殺数	0.77	4.96	1.76	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.00	1.11	0.75	
	"	黄色粘着トラップ誘殺数	3.01	5.92	6.54	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	17.60	28.72	16.00	
ナシ (県内全域)	黒星病 (秋型病斑)	発病葉率 (%)	3.21	1.63	2.74	前年10月調査
	黒星病	罹病芽率 (%)	0.08	1.27	0.14	
	輪紋病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	卵越冬ハダニ類	産卵数	0.00	0.45	0.00	
	ナシチビガ	越冬蛹数	0.00	0.01	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋症	発症株率 (%)	0.80	0.44	0.80	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.88	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.26	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	0.00	9.06	8.80	
	"	黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	2.34	3.00	
	ヨトウムシ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
ストック (安房)	コナガ (施設)	被害株率 (%)	4.00	2.34	6.40	
	"	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.36	3.20	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	1.60	12.59	2.40	
	"	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.15	0.00	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	2.40	1.23	0.00	

\*黄色粘着トラップ誘殺数: 438 cm<sup>2</sup>の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

### トラップ月間誘殺数 (2月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匝、安房	0.29	0.16	0.16	頭/日

## ○気象予報

3月13日気象庁発表

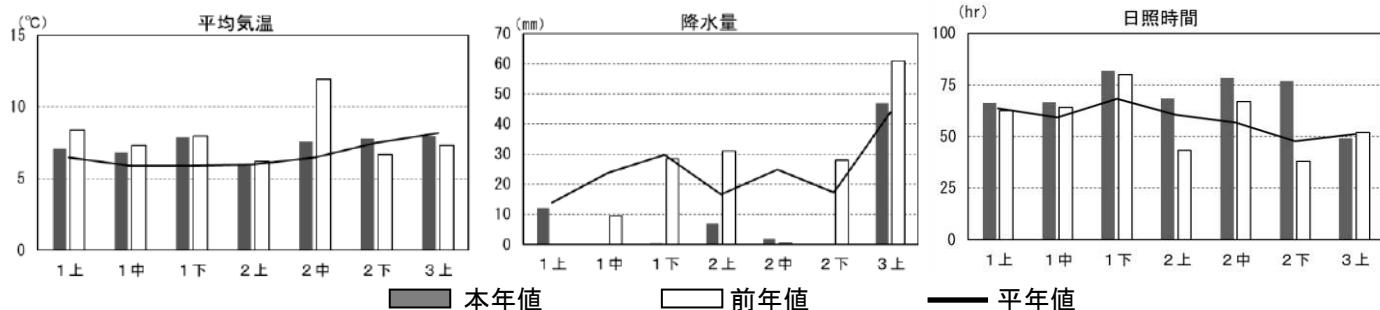
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(3月15日～4月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	11.7	11.5	12.0
降水量(mm)	115.7	144.0	166.2
日照時間(hr)	175.0	179.3	174.9

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- 次回の発行予定は4月16日です。  
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

